

第 18 回高等学校改革プラン推進委員会（第一推進委員会）議事録

1 日時 平成 18 年 1 月 29 日（日）午前 9 時 30 分～午後 1 時 00 分

2 場所 長野県社会福祉総合センター 3 階 研修室

3 出席委員

中村 正行委員長	若麻績 享則委員
森野 貞雄副委員長	清水 保委員
青木 一委員	坂口 昌夫委員
中沢 一委員	小山 壽一委員
小山 元彦委員	宮本 精一委員
塚田 芳樹委員	丸山 稔委員
市川 浩一郎委員	

4 開会

（三澤教育支援主事）

皆さま、おはようございます。

それでは時間となつてまいりましたので、第 18 回の推進委員会をよろしくお願いいたします。

（中村委員長）

おはようございます。

第 18 回の推進委員会を開催させていただきます。

いつもどおり議事に入る前に、事務局から他の推進委員会等の様子、それから資料の説明をお願いしたいと思います。

それでは事務局、お願いします。

（三澤教育支援主事）

それでは、よろしくお願いいたします。

最初に他の通学区の推進委員会の状況でございますが、第二推進委員会、東信地区でございますが、1 月 15 日に第 17 回が行われております。定時制の再編につきまして、議論が行われ、上田市内の上田千曲高校と上田高校にある定時制について、第 1 通学区に設置される多部制・単位制高校に統合していくことが、多部制・単位制の趣旨の面からもよいのではないかという意見が多く出されておりますが、近くにあることも必要という意見もございまして、報告書をまとめていく段階で方向を決めていくこととしております。また推進委員会の報告書骨子案が出されておまして、記載内容について検討がされております。

第三推進委員会、南信地区でございます。1 月の 18 日に第 15 回が行われております。岡谷東高校と岡谷南高校とを統合することについて決定されております。また報告書記載内容について検討されておまして、岡谷東高校、岡谷南高校の統合後の高校の魅力づくりとして進学対応型単位制高校や、進学対応の総合学科が提言されております。

また飯田長姫と飯田工業統合後の活用校地、岡谷東、岡谷南高校の統合後の活用校地について、また具体的な配置校を決定するに至らなかった総合学科についての記載も検討されております。多部制・単位制については、今後魅力や課題について、さらに深めていくということとなっております。

第四推進委員会、中信地区でございます。1月の14日に第17回が行われております。この日の委員会の中では、前回から継続して報告書についての審議が行われておりました。大筋では原案どおりとすることで合意されまして、細かいことについては各委員からの意見修正案を聞き、委員長、副委員長のところで調整をし、全委員の確認を得て報告書の提出という運びということになっておりました。

その後の、報道等でも既にご存じのことと存じますが、1月26日には第四推進委員会より教育委員会へ報告書が提出されております。

他の推進委員会の状況については、以上でございます。

以下、高校教育課三澤教育支援主事から資料説明 【説明内容省略】

(中村委員長)

ありがとうございました。

ただいまの、他の推進委員会の状況、資料の説明について、ご質問等ありましたらお願いいたします。

(森野副委員長)

ただいま説明いただいた上田と上田千曲の定時制について、これはもうちょっとはっきりお願いできるでしょうか。位置づけをお願いします。

(中村委員長)

はい。第二推進委員会の様子ということでしょうか。

はい、事務局、お願いいたします。

(三澤教育支援主事)

はい。再度ご説明いたします。上田市内の上田千曲高校と上田高校にある定時制につきましては、第1通学区に設置される多部制・単位制高校に統合していくことが、多部制・単位制の趣旨からしてもよいのではないかという意見が多くございました。

ほかにも近くにあることも必要であるというような意見が出ておまして、次回報告書をまとめていく段階で、方向を決めていくということでございます。

(森野副委員長)

はい、わかりました。

そうすると、第二通学区では、野沢南へいくということになるわけですか。

(三澤教育支援主事)

はい。第二推進委員会では、多部制・単位制高校の配置としまして、野沢南高校ということで決定しておりまして、上田高校と上田千曲高校に現在ある定時制につきましの配置についても、現在検討されているという段階でございます。

(森野副委員長)

はい、ありがとうございました。

(中村委員長)

ほかにございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

(坂口委員)

お願いいたします。前回欠席して失礼いたしました。かなり前、県教委では広く県民からさらに意見を聞くということで、1月の半ば、10日だったでしょうか。締め切りの住民からの声を聞きたいということで募集したように思いますが、そのことについてどの程度、どんなことが今やはり県民から多く出されているのか、もし把握している範囲で、説明できる範囲で結構であります、できればお話いただければと思います。

(中村委員長)

はい。この推進委員会の審議の参考にということで、もしまとまっているところがあればお話しいただきたいと思います。事務局お願いします。

(柳澤教育主幹)

県民からの意見募集ということでございますが、今取りまとめ中でございます、多数来ておりますものですから、何らかの形でそれを取りまとめをしまして、公表してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

(中村委員長)

坂口委員、よろしいでしょうか。

(坂口委員)

それぞれの推進委員会には、当然それぞれの推進委員会の報告をするという、それとは別個に県教委で受け止めて、さらにそれをこれからの策定、あるいは実施計画の策定に、それと一緒にことですよね。

ですから内容的なものなどは、もう時期的な問題もありますし、公表するということは特に考えていないということでよろしいですか。

(中村委員長)

それでよろしいでしょうか。

(吉江高校教育課長)

今お答えいたしましたように、まさしく 10 日までという日程で今現在推進委員会の皆さま方、各地区ごと議論いただいているときでございますので、私どもといたしましては今回いただきました、県民の皆さまからのご意見につきましては、これからそれぞれの委員会からいただきました報告を受けて、最終的に実施計画を策定していく段階に、いろいろな資料としてまとめさせていただきたいと考えている次第でございます。

(中村委員長)

よろしいでしょうか。

ほかにご質問等ありましたらお願いいたします。

なければ、委員の皆さんでまた情報がありましたら、この場で紹介していただきたいと思いますが。私のほうから 1 件、1 月の 27 日に千曲市長の宮坂さん、それから千曲議会議長原さんから、委員長あてですね。委員長中村正行さまということで、私の職場に多分お届けいただいたのだと思うのですが、タイトルはありませんがお願いの文書が来ています。

高校改革プラン検討委員会の最終報告書で示されるとおり、第 1 通学区の多部制・単位制高校は坂城高校とされるよう強くご助言賜りますようお願い申し上げます、という文章が来ております。

ほかにございますでしょうか。あるいは今の文章は、皆さんのお手元にいつているのかもしれませんが。よろしいでしょうか。

それでは議事に移らせていただきます。先ほど事務局からご説明いただいたとおりですが、報告書案をあらかじめご覧いただいて、ご意見をいただいて修正案をここへ出すということでしたが、少し動きがありまして松代地区、千曲市、動きがありましてその様子を見ながら、ご案内いただいた会合に出席しながらということで、少し慎重に対応させていただいた関係上、皆さんにお配りするのが遅くなってしまいました。

ちょっとまたまとめを書いている段階で、やはり審議が途中であるなという感じもいたしておりましたので、こういう対応になりました。あらかじめ報告書案に対して文章でご意見もいただいておりますが、今日この場で審議をしていただく。それでまとめていくようにしたいと思います。

議論の途中のところが多少あるかと思いますので、まとめながら方向を決めていく。報告書の文章をまとめながら方向を決めていくという部分もあるかと思います。そのようにお願いしたいと思います。

それでは報告書をご覧いただきたいのですが、時間の関係もございますのでできるだけ区切って説明をしながら、1 つ 1 つご意見をいただいきたいと思います。ですので 1 章、2 章というような形で、この範囲でというふうにご意見を伺っていきますので、ご審議いただきたいと思います。

報告書案は、ちょっと前ですが皆さんのほうには届いているはずで、お読みいただいているということで進めさせていただきます。こういう進め方でよろしいでしょうか。ですから場所によっては、そこでまだ議論の途中のところを審議いただくということになるかと思います。

それでは、目次はよろしいかと思うのですが、「はじめに」と 2 番の「開催状況」のここ

ろ、このあたりで何か、ここまででご意見がありましたら、お願いいたします。

「はじめに」のところは、この推進委員会の設置の経緯、それから今日で18回目でしょうか。ここまで委員会を開催してきた、おおよそそのことが書いてあります。それとここに報告することは、推進委員会の総意であるとさせていただきます。それとあとは、各章の大体の概要を記述しております。

開催状況は、ホームページにも載っておりますものですので、時間や何かのミスがもしかしたらあるかと思いますが、ここは再チェックいたしますので、内容についてはよろしいかと思いますが、特にございませんか。はい。

またお気付きの点があれば、途中でお願いいたします。では続いて3ページです。

ここをまとめると申し上げていただいづ経つわけですが、私どもの推進委員会が任された検討事項の内容についての報告ですので、ぜひ入れなければいけないところだと思います。議事録から概要をまとめて、魅力ある高等学校づくりに関する事項で審議していただいた内容、ご発言をいただいた内容をまとめるとしてありますが、まだ審議中というところもありますし、なかなか議事録が確定しておりませんので、もう少し時間をいただきたいと思います。週明けには皆さん方に、お配りしようと思います。あまり問題になるような表現等はないと思います。単純にこの推進委員会の状況を、話に上がった内容をまとめるだけでございます。

ですのでここは、飛ばさせていただいて、次は4章目ですね。県立高校再編整備候補案第1通学区についてということで、この推進委員会で議論をいただいて、また方向性がある程度示された部分を記述したものでございます。これも皆さんがご発言いただいた議事録等をよく見まして、私のほうでまとめたものでございます。

ですので推進委員会の発言の内容ですね。それと文章になったものと若干ニュアンスが違っていたりして、そのあたりは委員長の感じているところと、ずれているところとあるかと思いますが、その辺をご指摘いただきたいと思います。文章自体は、皆さんにご発言いただいた内容そのものと思います。

それでは、これは4.1のところというふうに区切ってご発言等お願いしたいと思いますが。

(丸山委員)

最初に、一応全部読ませていただいて、私は意見というか、こういうふうに修正したらどうかという提案を、A4のプリント2枚をお配りしてあります。その部分、その部分で随時説明は口頭で言いながら、文章をこのように変えたらどうかという提案をしたいと思います。

4.1の飯山地区の分については、少しニュアンスが違うんじゃないのかなと、委員会で議論されたことが。それからもうひとつは、地域の意見等も勘案していきますと、ちょっと私はとらえ方としては違うんじゃないのかと思います。

それは大方のところはいいのですが、飯山南と飯山北の学校を、しばらく存続しながら段階的に、最終的には農林も含めた2校にしていこうということではなかったかなということで、委員長さんが書いていただいた文章を少し換えるということでもいいんですが、なかなかうまくいかなかったものですから、ちょっと書き換えてみましたので提案します。

第1区においては、飯山照丘高校、飯山南高校、飯山北高校3校統合と農林高校1校の、2校への再編を段階的に進める。当面の間飯山照丘高校と飯山南高校を統合して、飯山南高校の校地校舎を利用し、その後生徒数の推移等勘案して、最終的には飯山照丘高校、飯山南高校の統合高校と、飯山北高校との統合を進め、飯山北高校の校地校舎を利用する。

こういう方向ではなかったのかなと思います。というのは、地域の意見もありましたし、私もここでも意見を言った覚えがあるんですが、南高と北高を統合して両方の校舎を使うというのが、かなり難しいのではないかということが、地域からもこの場でも意見があったと思います。

そういう点で地域の多くの意見も反映させれば、今言ったようなことになるのではないかと思います。段階的に2校にしていくということは了解をしたということだと思います。その関係で、要望のところの5項目目、「複数の校舎を使用している間」というところは削除してもいいのではないかなと。

以上です。

(中村委員長)

はい。修正案ということでご提案いただきましたが、いかがでしょうか。

(小山(元)委員)

今の丸山委員さんからお話がありましたことと、似ているところがありますが、11月12日にそれぞれの各地域の諸団体によつての要望等意見が出された、この第1の場合に3団体から意見が出されましたですね。そのうちの2つの団体のからの意見が、今、丸山さんがおっしゃったような内容に関係してくるわけですが、それを踏まえて第12回ですか、11月28日のこの会の議論で、多少これとは違うようなお話になるわけですが、普通科高校が3つを即1つに統合するのでなくて、段階的に考えていきたい。

と申すのは、地域の要望によりまして、平成25年度までは9学級編成可能ではないかと。その可能の期間においては、普通科高校2つに統合していき、そしてその後1つの普通科高校に統合していくことが、その方向としていいのではないかと。そういうひとつの方向へ出てきたんではないかと思いますが、そのようなことを、この意見をどのように生かすかということで提案したわけです。文章化してありませんが、意見としてその方向で出ていたはずだと思いますが、その点いかがなものでるか。

(中村委員長)

9学級規模が平成25年まで続くという、その文章。9とか25年という、その数字を入れるということでしょうか。

(小山(元)委員)

可能ならば入れていただきたいと思います。ただ、段階的にということを入れるべきではないかと。

(中村委員長)

数値が入っていると、段階的にというのがかなり明白になってよかったと思いますが、平成 25 年まで 9 学級というのは予測ですね。

(小山(元)委員)

県で示された、予測ですね。

(中村委員長)

そうしますと、この丸山委員のご意見ところは「段階的に進める」という、その文章が、この案とは違って明白にそこに入っているということが 1 つの点でしょうか。

(丸山委員)

県教委の候補案も、当面飯山北高、飯山南高の校舎を利用し、将来的には入学者の推移を見て、両校を統合する、それで北高の校舎を使うと、こうなっているわけですね。だからそれと、それから地域の、今の小山委員さんのおっしゃったことと関連や、地域からの意見ですね。そういうことを考えると、確かに 9 クラス規模になるまでは、普通科に 2 校ということや、それが平成 25 年まではあるということをそれ入れても私は構いませんけれど、私のはそういう意味です。

だから段階的というのは、実は県教委の案も段階的なんですよ。ただ県教委の案の場合には、1 つに統合をして北と南の校舎を使うと取れるわけですね。それはこの委員会では、ちょっと離れていて無理ではないか。いわゆるジョイントして無理ではないかということですね。ジョイントじゃないですね。1 つの学校で 2 つの校舎ですよ。

それは無理ではないかという意見があったので、それは地域との意見を合わせると、南高、北高 2 校を残していく、しばらく残していきながら、最後は 1 つにしていくということです。ただ、ここで私は普通科 2 校と農林 1 校と、委員長さんの案はなっていますが、ちょっとそこだわっちゃったのは、体育科とか理数科があるわけですよ。そうすると普通科だけじゃないので、体育科や理数科も、うまくこの再編の中でどういうふうに想定していくかということもあり得るわけですね。統合等の中にね。

それも含めてということになると、ここでちょっとくどいけど私のほうでは、照丘、南、北 3 校の統合と農林高校 1 校と書いたということです。だから段階的というのは、わたしの中でも普通クラス平成 25 年までは、普通科というか北、南をそれぞれ残しながらという考えは同じです。

(中村委員長)

はい、わかりました。

(小山(壽)委員)

議論の中では、2 校舎制の問題点というのは指摘されたと思います。ただ統合について、段階を踏むというようなことは了解されているということはないです。やはり統合を繰り返す、これは大変でありますので、また段階を踏む、当然その 2 校間の連携というのが非

常に難しいです。連携した学校それぞれを使うといった場合には、口で連携というのはやさしい。実際に連携をしていくということは、非常に難しいことでもあります。

それから体育科、理数科というのは、この文章の中にも指摘があるわけですが、非常に多くの教員をカリキュラム上も必要としている。そういう問題がありますので、私とすれば統合は1度にするべきである。

また、2校舎制の問題がありますので、下から3番目の、校舎の改築、施設の整備をぜひ進めてほしいということについて、平成30年くらいが北高の校舎改築というふうに言われているわけです。10年前倒して、校舎改築をして、統合する中で、それぞれの生徒ができれば一緒にできるようにする。そういう方向に持っていけば、2校舎制問題を回避できるのではないかと思います。この2校舎制に問題があると思います。

(中村委員長)

ポイントは、統合して利用しながら進めるのか、あるいは統合が段階的なのか、そういう違いだと思います。この辺いかがでしょうか。

(丸山委員)

この地区の問題は割と早い時期に議論したと思いますが。私も自分のノートをざっと見て、確かにここでそういうことで合意をしましょうという確認はしなかったかもしれませんが、年次的とか段階的にやるべきだということが、何人かの委員さんから出ていたし、それから地域の意見の2つの団体も、その段階的にと言っているわけですね。

それから校舎、両方の校舎を使うことの問題点というのは指摘をされていて、それに対してこういうふうにするばということについては、あまり出ていないわけですね。そういう点では方向性ということですので、私が言ったような、あるいはさっき小山委員さんが言ったような方向のまとめがいいんじゃないかなと思っています。

(中村委員長)

ほかに、どなたかご意見ございますでしょうか。

丸山委員の案ですと、かなり具体的な段階の手順が示されているんですが、これは方向性のところに書き加えるということで、要望ではなくて、上の部分ということですね。

(丸山委員)

その後もそうです。

(中村委員長)

最終形は多分、こちらの報告書(案)と同じなので、具体的にこれを実施計画の中で決めていくのは最終形は同じにはなるとは思います。

(丸山委員)

最終的なところは同じなんですよね。だからただこの委員長さんの文章だと、率直に申し上げて、最初は「当面の間」というのを取っちゃただけでいいかなという気もしたんですが、それだと当面の間というのは、長いのか先なのか、近くなのか理解が分かりますが、普通に考えたら当面の間普通科1校と農林1校にするということになると、これは明らかにすぐに3つは一緒にしちゃうということに取れるわけですね。

そして「・」3つ目で、それぞれの校舎を使って最終的に北高へという手順ですね。少しその辺が違うと思うのですが。

(中村委員長)

私がこういう書き方をしたのは、これもご意見にあったと思いますが、3校のどこかが最初に統合されていくというわけではなくて、3校全部並列だと。みんな大事な高校なので、これを1つにしてやっていきたいという、そういう思いが地域にはあるというご意見があったと思うんですが、それを入れたわけです。

ですからはじめにどこかがなくなるという、文章的な明示をしてしまいますと、これは心情的な面ということだと思いますが、その辺を少し含めたのですが。

(小山(元)委員)

地域で考えると、普通科高校3つを2つにし、そして最終的には1つにならざるを得ないと。これは、今、委員長さんがお話しされたとおりで、地域で考えているのは南高と照丘を統合して、それで南高と北高を残すという、そういう考えではないわけですね。3つある普通科高校を2つに統合して、最終的には1つにやらずに、これはもう少子化の問題でならざるを得ない現実的な問題だと。

ですから先ほど申し上げましたように、平成25年度目途といいますが、9学級編成可能な限り、推定ですからそこまでいくかどうか分かりませんが、できる限りやはり3普通科高校を1つに即統合するのではなく、2つに統合し、そしてやがては1つに持っていくという手法ではいかがでしょうか。

ですから、どの高校を残すという立場ではなく、3つの高校を2つに統合し、最終的には1つになるんだと、そういう方向性で考えているのが地域の実情です。そうすると丸山先生とちょっと違うところがあるかもしれませんが、了解いただければ。

(中村委員長)

多分方向性のところは最終形を書いて、そこへの段階的なステップは要望のところに。丸山委員の具体的なものもあろうかと思いますが。これはこのまま書くと、これはまず統合校が別の名前なり、1つの高校になるわけですね。それですと、地域の方の思いとはちょっとずれてきてしまう点がありますので、校地校舎の利用という形からすれば、要望のところにちょっと表現を変えて入れればよろしいのではと思います。

(小山(壽)委員)

要は2校舎制の問題ということです。2校舎制には問題がある。2校舎制がなくなればいい。

(丸山委員)

私の案は確かに校名を出してありますので、さっき小山委員さんがおっしゃったように地域のある種、普通科2校でそして最終的に1校にしていくという、そういう方向性ということで、私もその名前は別にこだわりません。そういう点では地域の要望で、どういふふうにしていくということは、その要望のところに書いたり、あるいは地域でこれから議論していくということなら、それでいいですよ。

どっちにしても私は、委員会の意見の中で方向性ということになれば、2校舎を使うことのデメリットがかなり出まして、それは地域からも出ていると。地域での、段階的に普通科を最終的には1にするということを生かそうと言っただけですので、さっき委員長さんがおっしゃったように基本的な方向というか目指すところを方向性に書いて、その辺の段階的という面は要望のところに生かしていただければいいと。

私は、必ずこの学校をこうやって入れると、そういう意味ではありません。

(小山(壽)委員)

地域からの要望という言い方も、ちょっと偏りがあると思いますが、地域から3本考え方が出されました。地域から3本出されたということは、地域の考え方が1本に絞りきれなかったということでもあります。

高校関係についていいますと、4校で話し合いをずっと持ってまいりました。同窓会、PTA、特にPTAと学校長との間の話ですが、これは3校を統合するということで、段階を踏むという考え方は4市村の首長さんたちの案。それから高教組の高水支部の考え方である。必ずしも地域の方の、全般の一致した考え方ではない。むしろ高校関係についていえば、3つを統合したい。これは照丘高校からも、そのような強い要望が出ている。

(中村委員長)

ほかの委員さん、ご意見ございますでしょうか。

校地校舎の利用で、段階的に進めるという表現は入れるかどうかということになるかと思いますが。

その辺も、要望のところに何段階かにわたって、これはもう段階的に進めざるを得ないんではないかという表現にはなっているのかなと、今見るとそう感じますが、コース制を生かせ。それから理数科を生かした学校をつくっていくということです。施設、設備の面からいうと、南高の校舎はそれに使っていかなざるを得ないと考えていますが。

(若麻績委員)

この全体、この地区についてはこれから多分議論の中で、必ずこの推進委員会で出てきた、一番最初にありますとおり、結論または方向性というテーマと、それから要望というのはこれはある意味、明確な書き方の違いは、違うすみ分けをする必要があるというのは

感じます。

やはりその方向性として、今も丸山先生のご提案につきまして、やっぱり同じ方向性であると思いますし、書き方としてこれで私はいいと思っています。この中で、やはり出てきた議論の要望というのは載せていくべきだなということで、書いてないとまたそれも消えてしまうということになりますので、あったほうがいいかなと思います。

（中村委員長）

わかりました。ここに、「再編整備に向けての要望」とかぎ括弧で書かせていただいたのは、報告書をまとめる段階で方向性とそれに付随する付帯事項を報告していくということとを皆さんご了解いただいている、その付帯事項の部分を少し明確に要望と書かせていただく。要望と書くことによって、ここにある程度並列した意見を載せられるのではないかと思います。

皆さんご心配いただいているところは、それぞれ推進委員会で決断できない部分もありますし、これから実施計画を定める上で参考にしていただく面ではメリット、デメリット、両論併記まではいきませんが、その点を含めていきたいということで、要望という形で挙げさせていただきます。

（小山（壽）委員）

その意味で2校舎制の問題点ということを強調していただければと思います。

（中村委員長）

はい、わかりました。

何らかの形で、その2校舎制の方向を完全に避けることはできない。施設の利用ということであれば、校舎活用の面から必要なことなので、完全に避けることはできないかもしれませんが、それをできるだけ解決する方法で進めていってほしいという要望を入れるということですか。

それは丸山委員の5項目めを削除せよというのと、これは等価の話でしょうか。

（丸山委員）

そういうことならば、それは削除しないで生かしてもらって、もうひとつそこに、使用する場合は、こういう意味でこういうことが必要だということですね。こういうことが必要だということは、その裏側の問題点ということなんだろうけど、問題点と指摘があったことについて書いていただいて、だから複数校舎を利用するのはできるだけ避けて、避けたいがもし使用する場合はこういうことに注意してほしいというような記述にしてほしいと思います。

だから今、小山先生がおっしゃったように2校舎制の問題点というのを、ちょっと明確にそういうことが出たということは書いておいてもらえば、これは削除しなくともいいと思います。

(中村委員長)

わかりました。丸山委員、これを削除したほうがいいというのは、方向性のところに具体的な名前の統合の段階が示されているので、こういう問題は生じないという、そういう意味ですね。

(丸山委員)

生じる可能性があるということです。

(中村委員長)

そういうことですね。

ほかにご意見はありますでしょうか。

(小山(元)委員)

私や地域の考えは、1校舎制になれば、問題は解決するという発想ではないのです。だからあの議論のところでは、1つに統合しても2つの校舎を今現在の飯山南高と飯山北高の校舎を使わざるを得ないと。そして施設からいって、体育科は南高、理数科は北高、最終的には飯山北高へ統合するという考えですね。

それで今までの議論の中で言われたのは同じ学校で学習生活している生徒たちが、2つの校舎に、距離は3、4キロ離れていますね。そのところで学習をしていて、1つの学校として生徒自身が一体感を持てるかと、そういう問題があるとき出てきたと思いますね。

ですから可能な限り、やはり人数で、先ほど申しました9学級編成可能なところでは、2つの学校というものを残していてもいいじゃないかと。同じ学校の生徒が2つの別々の校舎に置かれて学習していかざるを得ないような、そういう状態を設定すべきじゃない。それは一番、そこのところでの趣旨になると思いますがね。

ですから校舎が1つに統合すればというよりも、2つにならざるを得ないところというのは、やはりその期間は2つの高校をきちっと設定して、子どもたちの学習環境を整えてやればいいじゃないかという立場です。

(中村委員長)

これは教育現場の専門的な知識が必要ではないかと思いますが、要望としては2つ挙げられるとは思いますがどうでしょうか。2校舎制の課題というのは、かなり大きいものがあるので、できるだけ避けるというのと、コースとしてはこれは地域の産業にも関係する、非常に活躍している生徒がいるコースがあるので、それも生かすというのを考えていくと、校舎を使っていくということは非常に必要だと。そこを両方挙げますか。それでよろしいでしょうかね。

方向性のところはよろしいでしょうか。地域の思いは、多分この報告書(案)の表現で反映されていると思いますが、具体的に書く必要はありますか。一度に統合するというのは、物理的な意味ではなく、学校の組織として統合するという文章を入れるかどうか。

多分要望を全部勘案すると、そういうことは入れなくてもよろしいかなという気はしますが、また県の教育委員会の整備候補案もその方向ですので。

文章になると、またご意見があらうかと思いますが、わかりました。皆さんのご意見を多分じゅうぶん反映できるように、両方理解しましたのでまた文章を作って早急に配布いたしますので、お願いしたいと思います。

ほかに何か別の観点でございますでしょうか。

（小山（壽）委員）

一番最後の部分です。中高一貫教育の導入を検討していくと部分ですが、これはたびたび発言をさせていますが、ぜひ併設型ということをつけ加えていただきたい。併設型の中高一貫教育の導入ということでお願いしたいと思います。

（中村委員長）

はい。これは要望のところですし、併設型を主にということですかね。検討していく過程では、いろいろなタイプを勘案しながらいかないといけないと思いますが。

（小山（壽）委員）

第四推進委員会の報告書が出ていますが、木曽地区と白馬地区については連携型の中高一貫教育も考えられるという趣旨の文言が入っていますが、あそこは地域的にいって連携型でやれる地区なんです、飯山については連携型は非常に困難である。生徒数と複数校が存在するというような、複数の高校が存在するということがありますので、連携型は非常に困難であります。

そういう意味で併設型の中高一貫教育ということで、入れていただきたいということです。

（中村委員長）

はい、わかりました。そういう用語を入れるということでいかがでしょうか。特にご意見がなければ。私の表現は、あえて取ったわけではなくて、多分3タイプ、議論しながら進めないとなかなか難しいのではないかという思いでこのような記載にしました。

よろしいでしょうか。ほかにございますでしょうか。

空欄のところもありますので、先に進めて、そこへいって時間が取られる可能性がありますので、進めさせていただいてよろしいでしょうか。

それでは 4.2、中野市、須坂市を中心とした地区ということで、この部分でのご意見がございましたらお願いします。

（丸山委員）

これも文章にしました。ほかの高校はこれでいいということなら、わたしはそれ以上言えませんが、さっきの言い方と矛盾すると指摘されるかもしれませんが、それはそうではないのですが、ここでは候補案と同じように中野実業高校の校舎校地を利用してと断定しているわけですが、私も発言した覚えがありますし、それから地域でも検討して苦渋の選択をしながら受け入れる方向になったわけですね。

その中で中野高校の校舎校地を使って、これはただ跡地利用ではなくて、総合学科の施

設の一部として使うということも含めて、現場や地域ではいろんな意見が出て、いろんな夢も語られているわけです。

そういう点では、あまり実高だけを使って、あとは中野高校の校舎は全く違うものにしてしまうと、あるいは売り払ってしまうとか、そういうことにならないようなことをちょっと残していただきたい。そういう点では、簡単なことですが、中野実業高校の校舎を利用してというのは、「主に」ということを入れてもらうこと。それから要望のところに中野高校の校地校舎の活用についても、統合した総合学科の施設の一部としての活用も含め、地域や県教委の意見、提案を生かした有効な活用をしてほしい。

それからもうひとつの観点は、せっかく地域でいろんな市民会議等立ち上げて、こういう総合学科がいいという議論をしているわけですね。そういう点では、そういう地域の高校教育を中野西高校も含めた、地域高校を支える地域の組織づくりというようなことも、進む芽が出てくると私は思うので、特に総合学科についてはそういうことが必要だと思うんで、総合学科の充実については特に地域との連携、地域からの支えが不可欠である。そのため高校教育も地域からの支える、地域の組織づくりと組織との連携に力を入れるべきであるという文章を、要望に入れていただきたい。

これは、議論の中で私もそういう意味の発言をしたつもりですが、ぜひ苦渋の選択をした中でこれを受け入れるということをやった地域で、しかも地域の動きとか、幅広い人たちの議論が始まりつつあるということを生かすという点で、このことを付け加えていただきたい。大筋の方向性は、賛成ですのでよろしくお願いします。

（中村委員長）

はい。「主に」という単語を付け加えるというのと、それから「・」のところに施設の一部としての活用、地域や教育現場の意見、提案を生かした有効な活用をしていく、これはこれはそのまま入れさせていただいてもよろしいかなと思いますが。

（青木委員）

特に丸山委員の提案してくださいました、「・」の2つ目、総合学科の充実についての2行ですが、まさにこれがこれからの地域の中における高校に対する地域の視点という意味では、今後不可欠な要素になっていくのではないかと私も常々思っておりますし、そのような発言をしてきたものであります。ぜひともこの項目は、追加で入れてほしいと思います。

（中村委員長）

丸山委員のご提案の、2つ目の「・」のところは報告書（案）の4項目と重複するのですが、違うところは組織づくりの表現を入れるかどうかということだと思いますが、この辺も青木委員は、この辺もぜひということでしょうか。

(青木委員)

そのぐらいのことを、書いておかなければ、その提案がきれい事で終わってしまって現実そのような動きに発展していかないような心配もありますので、やっぱり入れておいてもらったほうがいいかなと思います。

(中村委員長)

これは地域がつくっていただけるということなんでしょうか。県教委が指導的に。

(青木委員)

それは連係プレーで。

(中村委員長)

連係プレーということですか。

(青木委員)

はい。

(中村委員長)

市長さんがおっしゃるんですから、大丈夫だと思いますが。

この点、ご意見ございますでしょうか。

(小山(壽)委員)

それで結構だと思いますが、このことについては、総合学科のみならずすべての高校について必要なことでありますので、ここに入れると同時に全体のところにも、これに準じた表現が、全体に対する要望として入れておいた方がいいと思います。

(中村委員長)

地域の意見、あるいは地域の連携をという表現は、意識して各項目 4.1、4.2、4.3、すべて含めたつもりであります。もしかして表現の強弱があらうかと思いますが、それと 5 章のところ全体を通しての、地域との連携に関することを要望としてまとめたつもりでありますので、またそこもご議論いただきたいと思います。

どうしましょう、組織づくり。その組織との連携に力を入れるべきであるという要望事項。それから施設の一部としての活用というのは、表現は入っておりませんので報告書(案)取り入れていきたいと思いますが。

では事務局、お願いします。

(吉江高校教育課長)

ひとつとしますと、いわゆる一部を活用するという形でございますと、結果的に今までこちらの委員会で語られてきた統合という話と全然違う提案になってしまうと考えております。

その辺を考えた場合には、この表現を入れられるということは、結果として中野実業高校と中野高校をそのまま、例えばどういう形にしを残すというような形になってしまいますので、それにつきましてははっきりと入れるかどうかということは、私どもの今までの感覚ではこのような表現が入るという前提でこの委員会が議論されていたということを理解している次第ではございません。

それともう一点ですが、組織を立ち上げということは、もちろん何らかの形で地元の方々と、それから当然ながら地域の関係する学校、および県教委も含めまして、いろんな形で今後ご相談を申し上げていかなければいけない場面もあるかと思いますので、必要なこととは考えております。

ただしかしながら、この組織という表現がややもしますと、いろいろな形に使われてしまいまして、極論を言いますと逆にその組織との調整という話も出てきまして、はたしてどこまでの表現を使われるのがいいのかどうかというのは、若干私どもとすれば疑問な点がございます。

もちろんだからといって、ここにあります再編整備に向けての要綱の5項目目にあるように、地域のご意見等、あるいは地域の皆さんのお話し合いの上で方向性を探っていくということに対して、私どもが否定的というわけではございませんので、その辺も含めてご検討いただければと思います。

(丸山委員)

統合した総合学科の施設の一部としてというところが、例えばこの中野高校と中野実業を統合して総合学科という大きな理由のひとつは、全県的にいっても一番近接、近い距離なんですね。ということが、ひとつあると思うんです。

それからそのことがあって、もちろん生徒数の動向とか、総合学科の立地的な条件というか皐月高校との関係でということも含めて、それこそ地元も現場も苦渋の選択をしたわけですよ。簡単に売れるわけじゃないですしね。その中でいろいろ現場も、それから地域も、そういう意見が出てきている。

例えば、これはちょっといけないですか。中野高校は見えていただくとわかりますが、非常に周りの環境はいいんです。校内の環境もいいのです。校舎は古いですけど。例えば福祉系の系列などは中野高校を使って、というのは実高に全部そっくりどんと入れちゃうと手狭になる。総合学科を充実すれば充実するほど手狭になる。

だから一部の、例えば福祉系列を中野高校の校舎を使い、そこに。例えばこれも市で相談しなくちゃいけないんですが、市でどうお考えになるかということもありますが、市の関係と連携をしながらいろんな福祉施設等をそこに併設するような形ですと、それこそ生徒との交流学习もできる。子どもたちや、あるいは老人や、場合によっては障害者も含めて、そういうふうな形で福祉教育の場所として、新しい総合学科の福祉系列の拠点のところとして使うということだと思いませんか。そういうことはなぜいけないのか。

県は、要するに1校つぶせば金がかからないというだけの話ですよ。違う学校になるんですよ。中野実業と中野高校が統合して、総合学科の「高校」になるんですよ。だから統合なんですよ、明らかに。中野高校と中野実業がなくなるんですよ。これがいけないという言い方はわからないですよ。

それはもちろん、そういう面を残してほしいというだけで、そうしろと言っているわけじゃないので、どうなるかわかりませんが、検討してもらってね。そういうことです。

それから、組織づくりの問題も、実はそういう動きが出ていて、単に協力したり地域の要望を聞いたりって、そういうことじゃないんです。中野地区で、そういう動きが出てきて、それを受け入れようじゃないかという動きになったのは、中野西高校も含めて。正直言えば今まで、そんなに一生懸命いろんな支援をしていただいたけれども、本気になって高校のことを考えたかという議論が出てきて、それでそういう組織もつくってバックアップ、これは歴史的に初めてと言ってもいいですよ。

そういうことができて、それでそれじゃあと言うので、現場の先生たちも地域の人たちも、それじゃ中野実業がなくなるけれども、工業科と普通科がなくなるけれども、新しい夢を持って総合学科をつくろう。そのために支える組織をつくろうと言っているのであって、いろんな心配をしないほうがいいんじゃないかと思う。もっと地域で思っていることを生かして、そういうことを県教委が考えているかということ。

そりゃいろいろ問題になったら、そのときにいろいろ相談ですればいいことじゃないですか。基本的に間違っていないのではないのでしょうか。

（中村委員長）

施設の一部としての活用という文章をご提案いただいたところで、私がイメージしたのは校舎の一部というよりは、例えばＩＴ教室のようなものが地域の方が先生で開校していただく、そこに生徒が行くということで、外部の施設で学ぶというそういうイメージを私は持っていました。

ですから２校の校舎を残すという意味であれば、先ほど飯山の地区でご指摘いただいている２校舎制の問題というところが強く出てきてしまうと思いますが、丸山委員があえて提案されているのは、これは先生も移動して校舎として活用していくという理解をしないといけないところでしょうか。

（丸山委員）

それはいろいろなパターンがあると思うのです。ですからここでは要望として言っていますから、中野実業だけ使って、あと中野高校は全く使いませんよと、売り払いますよと。全く教育とは関係ない施設にしますよと。そうすると金はかかってとそういうことじゃないような道は残してほしいということだけなんです。

中身については、今委員長さんが言ったようなことや、私が言ったようなことを含めて、いろいろあるでしょう、それは、使い方はね。そうじゃなくて、ほんとに全く使わないこともあるでしょう。使えとって、どうしても使えということと言っているわけじゃないし、しかもあそこはほんとに近いんです。生徒だって移動できるぐらいの近さなんです。授業やる場合でも。

そりゃもちろん、同じ校舎の中でやるよりは、一定の苦労はありますが、そういうこともあって、そういう道を残してほしいと言っていることなんです。だから中身的なことまでを含めてじゃなくて、そういう検討の道は残しておいてほしいと。何かこれで言うと、もう中野高校の校舎校地は全く使わないということだけになって限定されてしまう。だか

らその道を残してほしいということです。

（青木委員）

今、丸山委員からの発言の中で、まだ議論はまとめてないがという前置きでありましたが、市の福祉関係の何らかの施設を空いたスペースに入って、そこで福祉を学ぶ子どもたちのうんぬんという、今説明がありました。それはまた提案としたら、まさにこの目新しい、ある意味では魅力を感じるようなものに一瞬私も感じたものでありますが、そのことに関しては議論はひとつも今してある段階ではありませんから、今日今、この場に及んでそのことの是非を議論するには場所が違うかなという気がいたします。

そのことはまた地域で、そういった場があれば、そんな話も出てくるかもしれませんが、今回まとめて言われたことは、ある意味では総合学科高校のボリューム的な物理的なものが、どれくらい中野実業の校地校舎をつかった場合に、地域の特に系列的な問題が、そこで収まりきれんかどうかという不安が一部ありますから、そういった意味では提案の、「主に」という言葉を使うことは、まさにそういった意味では大事な事かなという気がいたします。

ただ要望の部分の「・」の一つ目の部分を、将来の何らかの形で活用ができるという余地を残しておく、おかないの問題も、これはこの地域に限らずどこの地域でも議論の中でもそのことを盛り込むと、全体的に狂いが出てくるのではないかなという気がいたしますが、この場所に書くものではなく、全体論として書くのであれば、それはいいのかなという感じはいたします。

そのことで丸山委員さんのほうが気持ちがそれでご理解いただければ、そのような表現のほうがいいのではないかなと提案いたしますがどうでしょう。

（中村委員長）

施設の一部としてという表現ですが、福祉の授業に使うなり、ＩＴの教室に使うなりにしても、学校の施設となりますと、また今青木委員が指摘していただいたようなことで、全体にもかかわる、統合してもさらに２つの高校が残るところにもつながってしまいますし、事務局からもご説明いただいておりますので、学校の施設の一部としての活用という表現は入れないほうがいいのかなという気がいたしますが。

そうしなくても活用していく道はたくさんあります。それは地域とじゅうぶん話し合っていく必要がある。

（丸山委員）

そこはそれでいいです。ただ、今、吉江さんが言ったように、もう統合後校舎を使わない学校は、一切そこをちょっとでも使えば、それは統合じゃないというような言い方をされると、それは困る。

しかももう一遍言いますが、ほかの統合高校と違うのは、ほんとに近いんです。例えば、さっきの飯山北と飯山南。これも近いと言えば近いけど、離れていますね。松代と長野南はもっと離れているわけですよ。そこは、全然意味が違うということ。その分はあるのですね。そのことがここで総合学科やれと県教委が考えた１つの理由でもあるのでしょうか

ら。

そこはいいですから、それは特にこだわりませんが、青木さんがおっしゃったように、総合学科というものについて特にそういうことを感じるということです。内容を豊かにすればするほど、今の中野実業だけではやっていけなくなる。中野実業で収まるような、そんな総合学科でほんとにいいのかということも、私はほんとは感じている。そういう点では、そういう道を残すというか、検討する項目として残しておいていただければいいです。

だから字句はこだわりません。

（中村委員長）

わかりました。2つの「・」のところは入れさせていただきますが、施設の一部としてという表現は、別の方法に変えるか、もちろん跡地利用といいますか、そういうものが有効に利用するというのであれば、生徒も使えるような、教育の場面で使っていく、あるいは地域の社会教育の場面で使っていくというのが一番大きな有効利用だと思いますので、そうなっていかざるを得ないと思いますので、あえて表現は入れなくてもよろしいかと思えます。

ほかにご意見はありますでしょうか。

組織づくりに関しては、どうでしょうか。事務局から多少反応がありましたが、青木委員からは、連携という言葉だけでなく具体的なものを入れておくべきということです。丸山委員のご提案も、多分そういうことだと思いますが、地域連携を進めていくことは、当然必要なことですが、それに対して具体的な方法にかかわる用語を入れるかどうかということです。

高校改革プラン最終報告書には、地域プラットフォームというものも提案されていますので、今後いずれはそういった組織というのを県教委も考えていかざるを得ないんじゃないかなと思います。全体的なこととして。

ご意見ありますでしょうか。

（若麻績委員）

言わんとしている内容については、よくわかるつもりですが、全体論の部分にこれはありますので、連携を地域でやっぱり努めていくというのは、ひとつのシステムだと思いますね。ですからシステムとしてのあり方というのがわかることが大切だと思いますので、組織づくりになった場合と、ちょっとニュアンスが変わっちゃうのかなという気はいたします。

もちろん、いい教育環境をつくるための組織であるという前提でもの考えるんですが、各論というよりは全体としての枠組みを、連携が大事だと。そのためには地域としてもつくるんだというニュアンスのほうがいいのかなという気はいたします。

（中村委員長）

表現としては、個々の今検討している4.2とか4.3というような、4.1、4.2というところに入れるのではなくて、全体の要望として入れるということでしょうか。

(若麻績委員)

全体的ところに入れ、それで地域にも共通したことになるのではないかと思います。

(中村委員長)

そうですね。共通したことになる。すべてのところに多分地域との連携というのは、何らかの表現で入っているとは思いますが。全体的なまとめのところに、そういう表現はしたほうがいいという。

(若麻績委員)

それもひとつですが、この場面、ここから削除するとかという意味ではありませんので。

(清水委員)

この件について、先ほど丸山さんがおっしゃったように、この中野地区では苦渋の選択をされて、それを一転前向きにとらえて、地域を挙げて良い総合学科の学校にしていくんだという取り組みをされているということに対しても、ほんとに感銘を受けているわけですが、そういった意気込みのようなものが、この組織づくりにも表れているんじゃないかなという感じがいたします。

しかしながら、この組織づくりというのは、この推進委員会の中でのまとめの中に入れていく性質のものではないんじゃないかなと思います。これは個々に、もちろん委員長さんがおっしゃるように地域との連携というものは当然ながら、この中野地区に限らずすべてにおいて大事だということは前提ですが、組織をつくる・つくらない、また組織という名前を使う・使わないは、それは個々の事情によるのではないかと思います。この推進委員会としてのまとめの中で使う文言ではないような気がいたします。

(中村委員長)

以前私は須坂地区でそういった組織を立ち上げてほしいというような発言をした記憶がありますが、ちょっと強い表現かなと思ひまして、報告書案には多分入っていないと思いますが、組織づくりに関してはこれは地域との連携に力を入れていくという、少し表現を強くして組織づくりという言葉は抜かしていただいてよろしいでしょうか。

組織づくりといたら、どういった組織をつくってくれと要望するのか、それについて議論が必要かと思いますので、それについてはあまり深く議論しないように思います。

(丸山委員)

時間もないから、それでいいです。組織づくりというところにはこだわりません。ただ言いたかったのは、今までの連携というのは、何か学校の側からという感じが強かったんですよ。むしろ中野地区の新しい芽生えというか、私だけかもしれないですが、私が見ているのは、地域から支える動きが出ているというところが、すごく大事なことだと思うのです。

学校が地域と連携しなさいというようなことで、学校が主体となって地域からいろいろ協力してもらおう、それだけじゃなくて、中野市にある高校をどうするかということを議論

をした結果、やっぱり地域も支える何か動きをしなければいけないんじゃないかということが出ていたことはご理解いただきたいと。そのところをぜひ生かしていくということが、今度の改革をせっかくこれだけ議論した中での苦渋の選択を含めていく中で生かすことになる。

だから、私は組織づくりという言葉にはこだわりません。ただそういうことを生かしてほしいという意味ですので、今委員長さんがおっしゃったようなことを、ニュアンスというか入れていただければ結構です。

（中村委員長）

はい、わかりました。

丸山委員のご提案いただいた、ここの「主に」という用語と、それから「・」の2つは、多少文章が変わるかもしれませんが。施設をそのまま、学校の施設として利用するという点は除かせていただく、組織づくりを除かせていただくのですが、これは私のほうの報告書の案の項目と重複するところもありますので、その中に表現を抜けているところを入れて、生かして使わせていただこうと思います。

組織づくりに関するような地域の連携に関しては5章ですね。最後のところの要望のところにありますので、そこでまたご発言いただきたいと思います。

4.2に関して、ほかにございますでしょうか。

結構表現の変更、修正、ご提案いただいていますので、またこれをもう一度見ていただくという機会が必要になりますので、そういった面ではそこでまたご発言いただくということで、先に進めさせていただいてよろしいですか。

はい、それでは4.3。長野市、千曲市周辺ということでございますが、ここは2つありますので、まず中条高校と犀峡高校の両校を統合して、新しい高校として設置していくという再編整備候補案の、この部分に関するところで、まず議論していただきたいと思います。この辺の表現で何かございますでしょうか。かなり苦しい思いで、文章をつくったのですが。

（森野副委員長）

私はこの文章を全面的に賛成であります。やっぱり地域高校がなくなるということは、地域としては非常に寂しいことであり、沈滞するわけですがここで方向性の一番下の「・」ですが、統合はやむを得ないと考えられる、ここだと思います。

現実に第2回目の受検者数の実績を見ましても、これは募集定員に満たない。昨年もそうでした。こういったことが、年々続いているわけでありまして。子どもが集まらないということは、皆さん認知しているところであろうかと思えます。

地域でも努力しているわけですが、やむなしということになるのではないかなと思います。やはり改革には痛みが伴うかと思えますけれど、このところ斟酌（しんしゃく）していただいて、これは実施年度ですが、7年になるのか、8年になるのかわかりませんが、できれば地域との合意のもとに理解を得てお願いできればと思っております。

それから要望であります。めくっていただいて6ページ上に「・」が2つございます。全くこのとおりかと思います。地域との関係を保ちながら、交流の施設としているような

ことに、犀峽と中條とのジョイントではありませんが、両校の良さというものを育成して、地域に貢献していただければと思います。

私はこの文章は、全面的に賛成です。

（中村委員長）

ほかにございますか。

この部分も、推進委員会の何回かにわたってご発言いただいていますので、その内容をまとめたつもりであります。要望のあたりでもしかしたら、ほかのところのご発言と絡めていただいている部分が抜けていることもあるかもしれませんが、議事録がいくつか皆さん方のところにまとめて届いたと思いますが、あのあたりに書かれていると思います。

ほかにご発言がありますでしょうか。

（清水委員）

推進委員会の議論の中に、いわゆる地盤沈下というか交通の利便性も含めて若者たちがいなくなってしまうことによって、例えばバスの発着本数が減ってしまうというような懸念があるというような発言もあったわけです。そういったものを直接高校教育との関係はございませんが、地域の住民の方々の足の関係についての要望みたいなものも盛り込むべきではないかなと思いますがいかがでしょうか。

（中村委員長）

はい、今の点はいかがでしょう。これは要望として挙げると、具体的にはどなたがどなたにお願いすることになるのでしょうか。

（清水委員）

推進委員会の中での要望という形で、交通機関と私は思います。文言については、ちょっと具体的には考えておりませんが。

（小山（元）委員）

それに関連してお願いします。

今、清水委員さんおっしゃったことは、大事だと思いますが、私は中条高校へ行きましたとき、あそこの前のバス停のところに待っておられたおばあさんの姿が何としても印象に残っているんですが、あと40分あるからそこで待っているというおばあちゃん。

やはり地域の方々の足としてのバスですね。これ、今の案で行きますと中条高校うんぬんということになってきますけれど、統合やむを得ない方向は否めないわけですが、やはり地域で生活しておられる方々が、そのために影響を受けて、特に老人の方々がそのような自分たちの生活に直接関係するようなことになってくれば、やはりこの統合の問題についても禍根を残すのではないかと思いますので、やはり地域の方々の生活を大事にしながら、そういう面でも大事に盛り込んでいただければと思います。お願いいたします。

(中村委員長)

はい、わかりました。高校の再編が地域のシステムを変えてしまう可能性がある。それについては、跡地あるいは校舎のその後の有効活用も含めて、交通の面も配慮することが必要であると。そういった表現でよろしいでしょうか。これはすべてにわたって、共通ですね。

清水委員のご提案の文章を、要望のところに今のような形で入れさせていただきます。

ほかにごいませんか。

ではここで休憩時間を取りたいと思います。

【休憩後再開】

(中村委員長)

それでは再開させていただきます。若麻績委員は、所用により退席されました。ご承知おきください。

それでは休憩の前にご議論いただいていて、中条高校犀峽高校に関するところはよろしいでしょうか。特にご発言なければ先に進みたいと思います。

それでは、次の同じ4.3の中でございますが、長野南高校と松代高校の統合という候補案に関するところ、ここについてご議論いただきたいと思います。報告書(案)のほうでは、方向性と要望のところが点線の枠になっております。これはあらかじめ私は文章を書いておいたのですが、その後千曲市、それから松代高校の関係の方々の会合、あるいは要望、今日いただいた、松代高等学校の存続を願う決議文、それから嘆願書、それと屋代南高等学校の存続と充実を求める要望書、こういうものをいただきまして、地域の動きがあったものですから、それとまたこの推進委員会での議論もまだ途中であるということは、皆さんご承知おきいただいているとおりですので、この辺を少し考慮しまして、文章をこの時点で書くことは避けました。

ここを口頭で、文章の案ということで述べさせていただきたいと思います。特に何か、このやり方でよろしいかどうか。よろしいですか。

はい、それでは県立高校再編整備候補(案)のところでは、長野南高校と松代高校を統合し、地理的な条件から松代高校の校舎校地を利用し新たな高校を設置していくとなっております。ここに対して、この第一推進委員会で議論された方向性ということで申し上げますが、第一通学区全体を考えた場合、しばらくは生徒数の減少が穏やかであるにしても、既に学校数を減らさざるを得ない状況であり、将来的な生徒数の減少も考慮すると、現時点での生徒の流出入の状況からはこの2校の統合はやむを得ないと考えられる。

それと並列して、統合の際地域の生徒の通学に配慮しつつ、地域と連携した教育実績を活かすことができ、他地区からの複数の通学手段が選択できる松代高校の校舎・校地を活用することが望ましいと考えられる。

もうひとつ、地域の15歳年齢人口の減少状況や、宅地造成等による地域の発展性から、長野南高校の校舎校地を活用していくという意見も出ている。

これが、言わせていただくと、今のところの方向性だと思います。それと再編整備に向けての要望の点線の枠の中ですが2つございます。長野市南部の人口の動向や募集の状況

からは、長野南高校と松代高校はすぐにも再編・統合が必要な状況にはないと判断できる。

もうひとつ目、4 区においては全日制普通科の多部制・単位制への転換。さらには 2 校の統合など、普通科の選択肢が減ることが懸念される。再編整備に当たっては十分配慮すべき点である。

以上です。ひとまず議論をまとめると、このようなことになるかと思いますが、今日ここで少し議論していただいて、報告書案として今のことをベースに考えていただければと思いますが、ご意見ありますでしょうか。丸山委員からはいただいています。

（市川委員）

今、方向性を決めていただいたわけですが。私もいろんな議論をさせていただいた中で、今の委員長の方向性を見たとき、将来的に見たらこういう方向なのかなとは理解はしているところですが、ただ以前にもお話ししたように、先ほど委員長の要望の中でも言われたように、普通科の選択肢がどうしてもなくなるということは、子どもにとって非常に危惧すべきじゃないかということなので、ぜひその辺を要望として強調をしていただきたいというのが、私からのお願いでございます。

（中村委員長）

はい。

今、市川委員からは普通科の選択肢の要望項目を、強く強調した文章を入れろということだと思いますが、ほかにございますでしょうか。

（丸山委員）

お配りした案はまた後で、私の意見ですのでまだここは煮詰まっていないと思いますので、意見を言わせてもらいますが、ひとつは今委員長さんの提案があったものについて、私は前から言っているように、なぜ松代と長野南かという理由が、もうひとつははっきりしないということではないかなと思います。それがひとつです。

ここには、今、委員長さんがおっしゃったのでは、現時点での生徒の流出入の状況からということしかありませんし、それからもうひとつ。それがひとつですね。

それから今までの議論でいうと。それからもうひとつ、要望のところには、今度はすぐには再編統合が必要な状況にはないと判断できるということが、既に学校数を減らさざるを得ない状況であるということと、ちょっと矛盾するんじゃないかなと思います。

この前の議論では、この長野南と松代の統合について、今すぐではなくて生徒の動きを見ながら何年度に実施せよとやるべきだという意見と、それから長野南と松代も含めて、もっと広域の地域の統合について近い将来問題にすべきであるという意見とに分かれていたような気がするのですが、私はこれまで言ったように、長野南と松代に限定するというのは、いまひとつ私には理解できない。

そういう点では、将来といっても、遠い将来ではなくて、近い将来に、この須坂から 4 区までを含めた統廃合問題というのが出てくる。その中で当然、松代、長野南も候補になるけれども、ここで松代、長野南に限定をするということとはできないのではないかな。そういう点では、広域に近い将来統廃合すべきだと私は考えます。そういうことを提案してお

けばいいのではないかなと思います。

（塚田委員）

私は基本的に、今この2校についての議論は委員長さんが報告されたとおりの議論が進んでいたと思いますので、委員長さんから今発表があったことで良いと思います。

特に丸山先生から言われた、今、必要ないということは要望の1でうまくみ取ってあるのかなと思いますので、私はこの委員長案で結構だと思います。

（中村委員長）

はい。この2校の問題に関しては議論も含めて今のここの文章のことですね。そのご意見をいただいていきたいと思います。

私が先ほど申し上げた、既に学校数を減らさざるを得ない状況というのは、これは全県で考えたときですね。その説明は5.3のところ。5.3の実施計画策定に向けての要望のところ、全体的な説明のその話です。61年から90校が維持されたままであると。その間に、それから31年の生徒数の推移を見ると3,000名減少する。もういくつかの小規模校が出てきているということで、この第1通学区においてもその状況は同じですので、そのところを既に学校数を減らさざるを得ない状況と言っております。

ですから矛盾というよりは、時系列で考えていただく必要があろうかと思います。

何かご発言ございませんでしょうか。

（森野副委員長）

委員長のお言葉は、もっともかと思います。

ただいまこの松代高校の存続を願う決議文というのを読ませていただきまして、そのとおりかなと思っております。以前には、申し上げた事があると思いますが、時代が動くたびに松代は問題を提起してきたように思います。ここにも掲げてあります。川中島、あるいは幕末の佐久間象山、それから大本営というようなものですね。やはり時代というような。文化遺産といったら文化になるんでしょうが、そういったところで環境の変化により、それぞれ息づいてきたと思います。

また松代高校の生徒の活躍といいましょうか、地域産業と結び付いた高校生の動きというものに、私は注目したいと思っております。ですから効率だけではなくて、学校を減らすことによって財源が浮くのではなくて、そういった財政面をクリアするんじゃなくて、何かこういった特長なり、そういったものと関係付けて、学校を削減する等の方向でなしに、考えるひとつの証しとして松代高校を残したいと、私はそのように思っております。

（小山（元）委員）

委員長さんが示された方向性ですね。方向性は、そのとおりに大事に受け止めさせてもらいたいのですが、今、森野委員さんもおっしゃいましたが、その下の2つのことですね。これは、ひとつはやはり松代高校のほうへ統合していく。それで、その下が長野南高校のほうへ統合していくという、この2案があるわけですが。

これは前回申し上げましたが、両方で更北、川中島地区と松代のほうで綱引き合戦した

んでは、非常に将来いろいろ波紋を残すのではないかとということで、可能な限りできるだけこうへ統合の問題は持っていただければ、ほんとはありがたいと思うし、そしてやはりこの将来的な展望から見ていきますと、歴史的には松代のほうに重みがあるし、将来的な人口増加ということを考えますと、発展的には今の長野南高校、それで校地が広い。非常に利便性の高くなっているところもありますので、私とすればできれば長野南高校の活用ということを考えております。

これ2つ、どちらが重い、どちらが軽いということではなくて、同じ重さとして併記していただければと考えます。そのようなことを要望したいと思います。

（中村委員長）

はい。そういうことですね。

項目は、物理的にはどちらかが先にしか書けないのでこうなっていますが、並列ということで番号はあえて振ってありませんので、そのようにご理解いただければと思います。

（丸山委員）

そうすると、これはどこの高校の校舎校地を使うかは両論ということですよ。それでその前にさっきも言いましたが、やむを得ないと思うところが私は問題だと思うのです。今までの議論の中では、県教委が言っている、長野の南部の地域から北部の学校に流出が多いということしか、この2つということは理由がないわけですね。それ以外理由がないと思うのです。

それだけで、何で長野南と松代なのかというのは、私は問題があると思います。全体として高校を減らさなきゃということはあるでしょうが、これももう一遍に言いますが、全体の状況からしたらここにも書いてあるけどすぐにということはないわけですから、もし先に送るとしたら2つの高校を指定して先に送るというのはあまりよくないと思うんですね。

私は19年度実施は反対です、全体的に反対ですけど、20年度以降の実施ということだと思うんですね。名前を出して、それは5年後、6年後統廃合なんだというようなことを、これはよくない。もしやるんだったら、それはできるだけ準備が整ったらやるというのがいいと思うんです。

そういう点でいくと、やっぱり長野南と松代に限定できるのかどうかというのは非常に大事なことです。私は限定できない。だから私は別紙に書いておきましたが、3区と4区の生徒数の減少がしばらくは緩やかであることや、長野南部の人口動向や募集の状況から見て、この地域ですぐに再編統合が必要な状況にはないと判断できる。

長野南高校と松代高校を直ちに統合する必要性の根拠は不十分である。従って4通学区制導入に伴う、今後の生徒の流出入の動きや生徒数の動向等を見定めながら近い将来2区、（須坂地区）・3区・4区を広域に見た新たな統合再編を検討すべきである、ということのほうがいいのではないかなということで、提案させていただきます。

(小山(壽)委員)

丸山先生のご意見は、これまで何遍かお聞きしているわけで、この委員長さんがまとめられたものは、われわれがこの地区について議論をしてきた、非常にこれ以上なかなかまとめきれないというぎりぎりのまとめではないかと思っています。

今回については、前回委員長さんから今までの議論の推移を斟酌してまとめていただくということであったわけで、そういう意味でいえば委員長さんが今までわれわれがしてきた議論を上手に見事なまでにまとめていただいたと思っています。

それから須坂地区については、何度か名前は挙がってきていますが、全く議論はしていない。議論をしていないところをここであらためて挙げるのではないかと思います。

(丸山委員)

今書いたのは、私の意見という確かにそのとおりです。これは議論のまとめではありません。それは確かです。

ただこの問題は委員長さんがおっしゃったように、議論の途中なわけですね。前は、いろんな議論をしましたが、2校を挙げて少し先のところまで、何年度ぐらいに統廃合しようとするという意見と、それと私が言ったような意見ですね。もっと広域にしてその2校に絞らずに広域にして、その中では須坂地区というのも私が出ただけですかね。だったら、それはもっとぼかして「広域に」でもいいですけど、広域にあらためて考えるべきだという、ただ減らすことは近い将来必要だという、その2つの意見が出て、前はそういうことで意見がまとまったんじゃないですか。

2校に絞るということに合意というか、決定はしましたか。そうではないと思います。今言った2つの意見が、分かれていたような気がするのです。

(中村委員長)

前回、須坂地区だけではなくて、2区、3区、4区もみた統合再編を検討すべきであるというご意見はいただいております。今回の丸山委員の文章に明示されているようなことですね。その際私は、そこまで広げるのであれば第1通学区全体ではないかなと思いました。そのように発言しました。

それも考えながら、こちらの報告書の案になったわけですが、その理由は既に校数を減らさざるを得ない状況という、第1通学区全体を考えての議論が最初のころにされていました。それをここに付け加えさせていただいた結果です。

どこかの高校を考えていかなければいけないということは、これは皆さんご理解いただいていることだと思いますので、そこにはやはり流入入の状況、という点があるのではないかと。これだけでは理由は不十分というご指摘もありますが、この理由が1つあるということです。

(坂口委員)

1つの委員会としての方向性を出すということは、これはもう間違いのないことで、この2校の統廃合が案として出てきているのも事実で、論議を重ねてきているわけではありますが、中学校の立場でいいますと、この方向性がもう優位であるということは間違いのない。

ただその下の要項にあります、やはり現在の状況から見て、すぐに再編統合がほんとに必要なのかと。中学校のそれぞれの地域の中学校長に、いろいろ話を聞いてみても、やはりそれぞれそこにいるということで、誇りが強いわけですが、松代は松代なりきの特色があると。それから地域の歴史、文化あるいは自然、それから地域商業との絡み。もうじゅうぶん高校の存在価値はあると。実績もつくっていると。

また長野南であれば、やはり北へ流れる、これは選択肢が非常に少ないという理由。あるいは長野南ができた経緯から考えればなぜなのかというのは、やはりその地域にとって大事な学校であると。もちろん特色あるいは魅力というようなことで、いろんな問題あるいは課題はあるにしても、今ほんとにここでどちらかに決めるということは、非常にまさに今までいくつか苦渋の選択というようなことで、中条が統廃合される。

いろいろ中学校の現場とすれば、送り出す子どもが行きたい学校がなくなるという生徒も出てきているわけですが、この2校の統廃合については、要望の1点目のところが今、中学とすれば要望が望ましいのではないかとっております。

それぞれ地域の思いがあって、なくなるということは非常に厳しいわけですが、まさにやむを得ないという中でも要望の1点目のところで、大事にしていなければありがたいかなと、そんな思いで申し上げました。

(中村委員長)

はい。ほかにご意見ございますでしょうか。

実施時期を定めた意見を報告というようなことも、多分議論に少なかったんですね。でも、われわれが判断できる今の時点ですね。この推進委員会の議論の中で、いただいた情報等判断しながら、実施時期を明確に示していくということは、まずできないんじゃないかと思いました。

それと久しぶりに第一推進委員会が先行せず、第四推進委員会で報告書が上がりまして、そこには現時点において委員会として判断ができず明示しないという項目もありました。

そういう判断も、確かに正しいのではないかとありますが、私も報告書の案のところには、そういった項目は載せてありません。ただその実施時期を定めてというようなことは、意見として出ていたことは確かですね。

丸山委員のこのご提案のところは、長野南高校と松代高校の、この名前を除くというような意味でしょうか。その方向性のところには、これを並列して書くといえますか。

丸山委員は、3つの項目を示していただいています。

(丸山委員)

はい。これは、委員長さんの説明されたところでいえば、方向性の中にこの3つを入れるという意味です。要望は、そのまま委員長さんが提案したものを残すことです。

(中村委員長)

2区、3区、4区に関しては広域的にという表現でもよろしいということですね。

何かご意見ありますか。

(清水委員)

丸山委員さんのおっしゃっていることも、以前からお聞きしている内容と何ら変わりはなく、確かにこの推進委員会で出された内容であることは間違いのないのですが、中村委員長さんがまとめられたこの中に、すべて網羅しているのではないかなという感を受けるわけです。

まさに3区、4区の生徒、減少してくるというデータであるというようなことも、この中に書かれておりますし、須坂地区のことについてもこの第1通学区全体という表現の仕方の中に網羅されているのではないかなということで、私は基本的に委員長さんが取りまとめていただいた、この報告書でよろしいのではないかなと思っております。

4回ほど前の委員会の折に、ちょっと蒸し返すようで大変申しわけないのですが、長野南高校を昭和58年に設立された、そのときの経緯ということで、県教委にご質問させていただいたのですが、確かそのとき傍聴席から発言があったやに覚えているんですが、その時点以降県からの明確な回答は得られていないような気がしているんですが私の間違いでしょうか。

ちょっとその辺だけは、確認しておきたいと思っているのです。

(中村委員長)

傍聴席から発言があったのは、委員会が終了した後ですので、傍聴席は発言できませんので、確かにそのようなご説明がありました。傍聴席からは、委員会の終わった後に説明していただきました。

その後事務局からは、資料はいただいてないと思いますが、経緯の説明は口頭であったと思います。もう一度お願いします。

(三澤教育支援主事)

以前と全く、一字一句同じになるかどうかということがありますが、生徒の急増期の折に、いくつかの新設校というのが時期的に重なって設立されております。第4区の通学区におきましても、いずれかのところに高校を配置していくというようなことから、かねてより校地の希望等あったところで、長野南高校が設置されていったという経緯でございます。

(中村委員長)

清水委員、よろしいでしょうか。

(清水委員)

私が記憶している限り、全く同じご説明だったように思います。ただもうちょっと突っ込んだご説明を期待していたのですが、つまりは昭和58年に1つの学校ができたということは、それなりのかなり大きな要因があったと推測されるわけで、地域の方々の強い要望があったということは、じゅうぶん理解しています。

要するに丸山委員さんも、以前にもおっしゃっていましたが、なぜ長野南なのかという点については、どうしてもいまだにすっきりしない部分がありまして、その折に私は、松

代高校のことについてはちょっと置いておいてという言い方をさせていただいたのですが、まずは長野南がどうして出てきたのかなということについては、この場に及んでもちょっとまだ理解ができていなかったもので、質問させていただいたわけです。

今のご説明以上のものがないとするならば、その範囲内で理解するしかないということです。ただ、やはり基本的に先ほど小山委員さんがおっしゃいましたように、どちらがどっちということは確かに私も言えませんが、松代高校も、それなりのという言い方だと大変失礼な言い方になってしまいますが、伝統と歴史、文化、地域に根差したものもありますし、また片や南高校につきましても、地域の方々の強い要望があってこそできた新設校といえますか、まだ歴史の浅い高校ですが、しかもまだ人口が増えているというようなこともあって、繰り返すようで恐縮ですが、委員長さんのまとめ方で、良いと思います。

（中村委員長）

先ほどから指摘いただいている、なぜ南高校と松代高校なのかというところですが、簡単な言葉でそこに説明させていただいている。非常にこれでは不足かもしれませんが、現時点での生徒の流出入の状況からは、そこにというのは第一推進委員会で議論された方向性のところに入れる案として、先ほど口頭で説明させていただいたとおり、現時点での生徒の流出入の状況からはという、これが理由ですね。

流出入の状況というのは、高校の再編が進むにつれて、また変わるものです。それから当然、生徒の希望、個々の学校の魅力、そういうものでも変わるわけです。全体的な高校の魅力あるシステムの中でも、各校の魅力の中でも変わっていくと思いますので、それがこの2校の統合はやむを得ないと考えられるとした根拠になっていますし、それはこの推進委員会の中で指摘していただいていたことだと思います。

流出入の状況に関しては、若干長野市から提案されたといいますが、説明があったものと違って入るんですが、基本的には数値の違いはあるにしても、方向は同じものでしたので、その辺は根拠としてはひとつの項目になっていると思います。

ほかにご意見ありますでしょうか。

あまり「委員長さんのご提案のとおり」と言われますと、私も苦しいのですが、最初申し上げたとおり報告書は委員さんの総意であるとしていただきたいと思います。

（丸山委員）

その流出入の状況からはというのは、微妙かもしれませんが、流出入の状況からは2校の統合はやむを得ないと考えられていると書いてありますが、これは流出入については議論があって、何で流出するのかということがあったわけですね。

例えば、その地域の流出してしまう地域の学校が、どんどん小規模化していくということならばわかりますが、例えばほかの地域で統合、統合、統廃合、さっき私は苦渋の選択と言いましたが、中野地区でもそうですが、もう減っていった小規模になっていくということが明らかになっている中での問題もあるわけですね。

そういうことでいくと、今後は例えば人口の状況では増えている状況もあるし、全体として当面そんなに減少はしていないということなので、ほんとに流出だけなんです。どうして流出するのかという議論はしたはずですよ。それが、「だから長野南だ」という。

それを松代と組むという、そういう理由づけとしてはものすごく私は根拠が薄いと思います。

どうしても、私は気になる。ただ、そのところ2校はやむを得ないという人がいると両論併記はできないので、ということでそうになっているのかと思う。確かに議論のことを大枠でまとめるとこういうことでしょうか、やっぱり議論の途中だからそのところをきちんと議論をしてほしい。

で私は、だから提案しているのは、私は今までの議論が、私が今さっき言ったような、提案したような議論ですね、と言っているわけではないのです。私の意見はそうだと言っているんです。議論の途中なので、前言った意見をもう一回文書でまとめてみたということなんで、やむを得ないというところは、ほんとにそうなのかというか。

何か私はほかの地域ですね。ほかの学校の候補と比べて、長野南と松代が、なんでその2校なのかというのがわからない。ほかはある程度理解できるのですが、ところがこれは理解できない。そのところは、やっぱり慎重にやるべきじゃないのかなと。あるいはそういうことの指摘をしておいてもらうような、そういうことでもいいかもしれませんが。

(中村委員長)

ほかにご意見ございますでしょうか。先ほどから申し上げているとおり、議論の途中であるという扱いでさせていただきます。

しかしなかなか検討材料ということで、情報がないということも確かですし、清水委員でしたか、ご指摘いただいているとおりということは確かですが。ですから、現時点での判断ということですね。議論をして、情報を集めてきたところでの判断というふうになるうかと思います。

ほかの方で、ご発言はありますでしょうか。

丸山委員がご提案のように、方向性とのところに、これは今の要望のところに書かれていることを、要望のところに私が先ほど申し上げたことを含めるということになるんでしょうか。長野南高校と松代高校は、すぐにも再編統合が必要にない状況にあると判断できる。そうすると両論併記ですね。

(丸山委員)

委員長さんがおっしゃった要望の1項目目と、私が言った1項目目はほぼ同じですね。

(中村委員長)

そうですね。同じだと思います。

(丸山委員)

このことを、方向性を全面に出すということで、私の案は根拠が薄いので広域でまとめるということです。ですから要望の1項目目を前面に出すということと、それから委員長さんの案ではいろいろな理由をつけた結果、統合はやむを得ないというのをを出してあるわけですね。そこが違うということです。

(中村委員長)

そうですね。

議論をしてきたところでは、こちらの方向ではないかと。丸山委員がご指摘いただいているご意見は、重々承知しておりますが、大方の委員さんのご発言等考えるとこちらの方向だと思います。

ただ再編整備候補案との比較でいいますと、やはりすぐに再編統合が必要な状況にはないと判断。これは皆さんのお考えになっているとおり、当然なので要望のところに任せさせていただいたこと。それと先ほどご指摘いただいたように、普通科の選択肢が減ることが懸念されるということもご指摘いただいているので、これも要望に入れます。

選択肢が減るというのは、少し私は疑問に思う面がありますが、学校の数減りますが第1通学区のシステム全体を考えると種類は増えているわけですので、その辺はここに限ったことで言うと、4区において選択肢の数が減ることですかね。

丸山委員のご指摘ですと、「2校の統合はやむを得ないと考えられる」、ここを除かないといけないと私は思いますが、方向性と書いてあるのに両論併記というのはなかなか苦しいものがあって、ここだけ認めるということであればよろしいかなと思いますが、これはやはりほかの地域との関連もあります。

第一推進委員会として判断した項目は、整合性を持っていないといけないんじゃないかと。そういうことであれば、もし両論併記であればほかの地域にもたくさんのご意見がありますので、そこもくんでいかなければいけない。やはり苦しいところですが、判断していかなければいけないのではないのでしょうか。

(森野副委員長)

苦しいところですが、この生徒の流出入の状況ですね。これは時により変わってくるような気がしますね。以前、12通学区のときだと思いますが、通学区が狭くなったので外部から来る。これ、偏差値なんて言っちゃいけません、偏差値の高い生徒が来られなくなったということで、12通学区制の入試制度というものを歓迎した中学生あるいは親が多かったわけなんですよ。

そういうことも考えられるね、この流出入っていうところは。ですからその生徒の学力差と言いましょ、そういったものによっても違いますので、これはどうしたものですかね。学力との整合性ということもありますので。その文面では、どういうことになるんでしょうね。誠にやむを得ないことになるかと思いますが、ちょっと参考までに申し上げました。

(塚田委員)

私は先ほど委員長の案で結構と申し上げたんですが、この委員会の中での議論がどうだったかという私のとらえ方は、大方の皆さんはやはりこの全体の状況を考えれば、2校の統合はやむを得ないんじゃないかと。どちらの校地校舎というのは、いろんな意見が出たと思います。

ただ、すぐ必要かどうかということでは、皆さんは疑問な点を持ったというふうに、この議論についてはとらえているので、その意味で委員長の書かれた案で結構ですと申し上

げました。

（中村委員長）

ありがとうございました。

ほかにございますでしょうか。

方向性のところに、すぐに統合するかどうか判断できないという趣旨を入れるかどうかでしょうか。そういうご意見もあったのですが、私は中学生のということを再三申し上げている。中学生のことを考えると、これから高校に入る子どもたちを考えると、きちんとした方向性で早く、できるだけ早期に改革を進めていく必要があると、ずっと考えてきております。

一部の地域の義務教育のPTAの方たちは、例えば選択肢が減るということで、改革に反対の方向を示されておりますが、やはり教育の充実を考えれば早期に、できるだけ早く再編統合を進めていくべきだと思いますので、時期に関してはここには、要望のところで入れさせていただいて、ご意見があったということを入れさせていただいたととらえていただくとうれしいのですが。

（丸山委員）

ですから結局2校の統合はやむを得ないという部分を、どのように考えるかですね。要望のところにすぐにはする必要がないという判断ということが入っているということで、2校の統合をやむを得ないという方向を出して、それでどちらにするかについては、これだと両方並列ですよ。両論ということで、どちらか決めかねるといって、両方の意見があったということですよ。

こういうことになれば、私1人だけで長野南なのかという理由がわからないと言っているわけが、大方がそうだとすることならそういう意見があったと。土台、根底の問題なんです。そこのところを議論したら大変なことになる。もっと時間が必要なんですね。

そういう点でいけば私だけだとしたら、それはその意見があったということは、理解というか記録というか、していただいてそれで仕方ないと思います。皆さんがそういう方向ならば。

ただ私は今でも、さっき言ったように思っています。

（中村委員長）

はい。委員の皆さん方には流出入の状況からもやむを得ない。確かに丸山委員が指摘していただいたとおり、「は」という助詞が、これがかなり重要な意味で、これ唯一ということではなくて、この状況を見ると、ということですね。

（清水委員）

この報告書のすべてに言えることではないかと思いますが、方向性というものは、やはりその推進委員会で議された内容の大方の意見をまとめるべきだと思います。

それで、その次の再編整備に向けての要望というものは、あえて言うならば課題や問題点、あるいは場合によっては少数意見、そういったものを盛り込むべきだと思います。

そうした場合には、やはり私も丸山委員さんの意見にまるっきり対抗しているわけではないので、一部同調している部分もあるにせよ、やはり今までこの議された内容については、こういったことで終わってしまったというか、議論の途中だという形で、表現の仕方は間違っていないのではないかと思っております。

この丸山委員さんのお書きになった「・」1 の、統合する必要性の根拠が不十分であるという意見も確かにあるわけで、これを要望というか、その中にもしこれを載せるのであれば、その中に入れていく性質のものではないかなと思います。

（中村委員長）

はい。不十分であるというご意見というよりは、再編整備候補案に関しての意見ということでとらえますと、流出入からの状況だけで判断すべきでないとか、そういった表現になろうかと思えますね。

（清水委員）

はい。そのような表現の仕方で結構だと思います。

（中村委員長）

ほかにご意見ありますでしょうか。

今日の状況を考えますと、もう1回やらざるを得ないのかなという感じがしますが、議論というよりは報告書の最終形を見ていただくという機会として設けなければいけないと、だんだん時間も迫ってきておりますので、今日ご意見をいただいたところを早急に文書を修正して、再度お配りしますので、それについて見ていただいて次回決定するしたいと思います。そんな方向でよろしいでしょうか。

はい。そういう方向で4.3の長野市、千曲市周辺のところは、ここでひとまず委員会の中での議論は終了したとしまして、4.4に移りたいと思います。

4.4、多部制・単位制高校の候補で、これは再編整備候補案では坂城高校の全日制を転換するとなっております。そして、私の報告書案では一部四角の点線となっております。まだ議論が途中であるというのと、千曲市での動きがありまして、私のところには要望書、直接お届けいただいたと思うのですが、そういうものが来ているということ配慮したところですが、ここについてご意見を伺いたいと思いますが。

あえて四角い点線の枠の中に、1 つつけ加えさせていただくと、申し上げますが、第1通学区内においてできるだけ多くの生徒が通えるところ、および現在定時制や通信制の設置されている第2通学区の上田市および長野市などの都市部からの通学の利便性も考慮し、候補案が坂城高校の多部制・単位制高校への転換であることに対して、推進委員会での対案が上がった屋代南高校を多部制・単位制高校に転換することが優位であると考えられる。

この辺は、委員会の最後のあたりまでに、高校として上がってきたのではないかなと思います。2つの高校の名前が挙がっていますので、そのどちらかの方向性を示す必要性から、今、1 つつけ加えさせていただきました。

ご意見をいただきたいと思いますが、これは、かなり議論してきていただいていますので、また再議論ということではなくて、ある程度方向のあることをお願いしたいと思います。

(市川委員)

前回も申し上げましたが、これを考えるときに、さっき委員長が選択肢というのがいろいろあると言われたのですが、私は普通科の選択肢とすると、このままいくと長野南、屋代南、松代の中で1校しかなくなるというのは、ある意味で子どもの立場からすると選択肢がなくなってしまうんじゃないかなという懸念をいたしまして、前回からも屋代南は普通高校に存続する、こういう案なら存続するべきじゃないかと私は発言をさせていただいたつもりです。

ただ先ほどから出ているように、皆さまの総意となれば、どのようになるかわかりませんが、もし委員長のお示しになったような方向にいくとしたならば、そういうことがあったということを、ぜひ要望なりそういうところへつけ加えていただいて、方向性を決めていただきたいと私からお願いを申し上げます。

(中村委員長)

普通科の選択肢が減ることですね。その指摘ですね。はい。

(宮本委員)

優位という言葉が、ちょっと気になりますが、前回の委員会でも委員会としての方向ということで、2校を1校に絞るということに対して、長野南と松代の件についてもどういう決め方になるのかという感じで、少し話をしました。

今は方向性を見た中で、2校を並列という形で近いもので、方向性がある程度決またと理解しますが、この屋代南と坂城高校の件についてもですが、この委員長さんの中では優位となっている点について、利便性について挙げられており、前回までの私が挙げたいくつかの点について、例えば被服科のこと。あるいは上田高校、千曲高校の定時制を考えると、屋代南高校と坂城高校については観点が違って優位な点が、それぞれ違うんじゃないかなということで、例えば何回か出しているんですが、検討委員会の最終報告書では地域との連携ということが多くなっているんですが、これはやはり坂城高校のほうが優位じゃないかなと考えます。

また被服科とか、ちょっと困難な点があるならば、坂城と屋代南と比べた場合には、やはり坂城が優位ということだと思います。また中沢委員から出ています、長野市に近いこととか、町村に2つあるということが考えられる場合、確かに屋代南のほうが良いかもしれません。

そういうことで、現時点ではなかなか判断がつきにくいといって、あえてどちらかが優位と言のではなく、両論併記に近い形、長野南高校と松代高校の議論と同じ方向の形で出していいただければと思います。

要望書も来ていますが、なかなか地域を見ますと坂城町と千曲市が近いところにありまして、地域の人たちの感情もかなりナーバスになっておりまして、ちょっと難しい点があり、委員会として、委員として、確かに地域として代表じゃないものですから、いろんな観点から検討を加えるということで、報告書が出されると思いますが、現時点での判断では、私は積極的に両論併記という意見を出したいと思います。

(中村委員長)

地域との連携に関して坂城高校が優位ということですが、それは多分この委員会の中では、そういうご発言というよりはむしろ千曲市の文化、それから産業等においても坂城町と匹敵するものがある。そういう感じで議論がされていたように思いますが。

ですからその辺は両校共通であるという判断で、私はあえて利便性の面で屋代南という名前のほうが、かなり多くご発言があったということも考えて、文章としてはこのようにまとめさせていただきました。もし地域連携の面で坂城が優位ということであれば、これはちょっと千曲市のほうも困ってしまうんじゃないでしょうか。連携されているはずというより、高校は大事ですから、今後の連携をしていっていただきたいというふうに思えば。

物理的な、やはり通学の利便性というのが、これは一番考えなければいけないところが多部制・単位制にはあると思いますので、このような表現にさせていただきました。

(小山(壽)委員)

前回のところで、多部制・単位制については、この委員会の中でも一番恐らく時間をかけて議論してきたと。前回の会議の中で、1つは多数決で決めることはやめようではないかということ。そして青木委員さんから出たと思いますが、今、行われている議論を斟酌(しんしゃく)して委員長さんのほうでうまく議論の推移をまとめてほしいということが出されたかと思います。

そういう意味でいえば、前回までの議論はここにまとめていただいたようなことであると私は思っています。

(中村委員長)

ほかにご意見ございませんでしょうか。

(丸山委員)

いつも私ばかりですみませんが、今、小山先生がおっしゃったように全体の議論の方向というかまとめとしては、そういうことなのかなという気もしますが、そういう意味だったら別紙のように、ただこれも議論の途中だと思うわけですね。あらためて私のほうで文章を書きました。これは読みませんが、基本的には坂城をいろんな観点から適切ではないし、屋代南も困難である。

そう私が感じるのは、ほかの高校は出なかったから、それは候補じゃないということではないんじゃないかな。たまたま屋代南が出て、2校に絞られてきたというけど、じゃあほかの候補を挙げて比較検討するというのが不十分ではないのかなと思うのです。

そういう点では、なかなか校名を挙げていくのは困難であると、私は今も思っています。もうひとつは特に多部制・単位制の場合、地域や現場の合意、納得というのが非常に大事になるわけで、その辺が非常に心配ですね。そういう点も配慮して、やっぱりもう少し何というかまとまらなかったというようなことでもいいんじゃないかなというのが私の意見ですが、これはまたさっきのと同じですので、また議論していただければと、私の意見はそういうことです。

(小山 (壽) 委員)

前回の推進委員会における議論を確認してほしいのです。あのときも、坂城がいいだろうか、屋代南がいいだろうかという議論。それから被服科をどのように扱っていったらいいだろうかということも含めて、議論がなされたと思うんですよね。その中で青木委員さんからさまざま議論されているが、この今の議論の動向を見ながら、多数決を採らずに委員長さんのご判断を待ちたいということで、すべての委員が了解したのではないかと思います。

ここに委員長さんがまとめてくれたものが、前回までの議論と大枠異なっているということであるならば、「委員長さん、それはおかしいですよ」というのは、いいと思いますが、私は大枠、こういうことだったんだと了解しております。そういう意味では、大体おおよそわれわれはこのような議論をしてきたと考えております。あらためてということは、もし前回の会議との関連で考えると、ちょっとそれはおかしいと考えております。

(塚田委員)

私も、この多部制・単位制については、まず皆さん多部制・単位制は魅力ある高校づくりのために必要であろうということは、ほぼ一致がされたのではないかと思います。それから通学ということでは、長野市というか、長野の駅に近いところがいいんじゃないかという意見が出ましたが、では具体的にどこだという名前が挙がらなかったで、それでは議論にならないので、やはり今出ている坂城と、それから屋代南で議論をしていきましょうということが、この委員会の流れであったと私は理解しているので、私もこの委員長がまとめられた、この意見で結構だと思います。

(清水委員)

私も基本的に塚田委員さんの意見と同じですが、ただ1点、これは丸山委員さんのおっしゃっていることと同じことなのかもしれませんが、私もまずこの坂城高校と屋代南の問題以前に、多部制・単位制の高校を、既存の高校から換えていくということに対する疑問というものを発言させていただいた記憶があるわけです。

新設の多部制・単位制の高校をつくるということについては、はなからそういったことで進んでいるわけではないということで理解はしていますが、この推進委員会の中でもしそういった、坂城高校と屋代南のどちらかにするということなどでまとまっていくにせよ、ぜひとも既存の定時制、それから通信制ですね。そういった高校の充実を図ることによって、多部制・単位制の要素を取り入れてもらいたいという意見は、載せてくださいと発言させていただいた記憶があるわけです。

それが先ほど私も申しましたが、この方向性では決してありませんでしたが、それは私も認識しておりますが、再編整備に向けての要望という中に、もし入れていただければありがたいし、載せていただけないのであれば悲しいなと思っております。

(中村委員長)

はい。明示はされていないですね。

夜間定時制がいくつかこのまま充実しながら残していくというところがありますので、今の清水委員のご指摘いただいた点、要望のところに明示をしたいと思います。

それと既存の高校から、多部制・単位制に転換するには、課題が大きいということもご指摘いただいております。ですがこれは、課題が大きいからやめろということではなくて、十分配慮をしていかなければいけないという表現になるかと思いますが、その辺の、多部制・単位制のメリットと、それから多部制・単位制に転換されるところの高校の、これからの課題ですね。それを地域と連携しながら、解決しながらやっていく。そういうところに十分配慮しなければいけないという文面は必要かなと思います。

(小山(元)委員)

それに関連してお願いします。

今までの高校を、全く新しい制度に転換する内容でございますので、今まで議論してきた内容とは多部制・単位制とも、どちらも違うと思うのですが。やはり実施するに当たっては、地域にじゅうぶん理解していただいて、地域の方々にやはり支援していただくということが、ほんとに大事な条件になるかと思いますが、地域の方々にじゅうぶん説明して、理解していただいたところから、その時点からやっぱり実施していくべきではないかなと思います。それが地域の方々への第一に考える手段ではないか。それも入れていただければな、と思います。

(中村委員長)

そうですね。そのところはかなり重い意見ですので。

(小山(元)委員)

9ページに…。

(中村委員長)

後でまた、お願いしたいと思いますが。

(小山(元)委員)

9ページにも、その点記載されておりますので。

(中村委員長)

そこはちょっと課題がありますので、そこはできるだけ早く議題に移っていきたいと思いますが。

(小山(元)委員)

はい、以上です。

(中村委員長)

4.4 に関しては、ほかにご意見はございますでしょうか。要望のところに清水委員、それから丸山委員のご指摘いただいているような内容から、少しつけ加えないといけないと思います。

ほかはございますか。

もう 1 つ、丸山委員からご指摘いただいている、2 校しか挙げられなかったという、2 校の中でどちらかに決めていくことに問題があるという点、これは丸山委員以外にも、多分宮本委員からもかなり前から発言いただいているところだと思います。

もうひとつ、やはり長野市内の高校というのも検討していただきました。ご発言の中に高校名を挙げてということではないとは思いますが、お気持ちの中にはいろいろな高校名が挙がって、その課題が同時に挙がって、やはりそれはどうかなということで、ご発言があえてなかったと思いますので、2 校だけしか名前が挙がらなかったことにも、やはりそれには皆さん方の議論がそこに進んでいったと考えてよろしいかと思いますが。

たまたま挙げたというわけではなくて、じゅうぶん検討された中から出てきた校名と考えます。

ほかになれば、4.4 の次にいきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

はい、それでは 4.5、定時制、通信制課程についてということで、ここも明示的には定時制、通信制を主題にした議論というのはしてありませんが、やはり多部制・単位制の中で定時制、通信制の取り扱いについては、もう何度も発言いただき、夜間定時制、通信制が減っていく、統合されていくというところに関しては意見を出していただいています。

ですからその内容を、いくつか「・」で方向性と要望ということで示させていただきます。ご意見はあらためてお聞きするというわけになるのかどうか分かりませんが、このほかにももしありましたら、これはつけ加えることになってしまうのかどうか。もしあればということで、若干議論が途中ではないのかなということで、点線の枠をそこにつけ加えさせていただきます。

(丸山委員)

私も意見を前、多部制とのかかわりでも言ったので、それは繰り返しません、やっぱり多部制・単位制の中で、今の、現実の定時制、通信制についていろんな意見などがあつたことは確かですが、やっぱり委員会としては時間の問題もあり、定時制の統廃合というのが、この候補案の中ではひとつの大きな柱ですね。多部制・単位制とのかかわりで。

その統廃合についての是非は、じゅうぶんな個別の検討はなかったような気がするのです。例えば、この定時制は残すのか、残さないのかも、じゅうぶんな検討がなかったと思うのです。そのことはちょっと触れておくべきじゃないかと思います。

1 つ 1 つの定時制について、県の候補案どおりでいいということでの確認というのは、多部制・単位制のほうのまとめがなかなかできなかったこともあり、このことは事実上できなかったですね。その事実として書いておくほうがいいのではないかと思います、どうですか。

(中村委員長)

はい。確かに個々の、名前を挙げてのここがなくなるといいますか、再編されると、その課題というような形では議論はしてないと思いますが、そういうことも含めて多分多部制・単位制の配置等議論していただいたと思っています。確かに個々の、名前は挙げては、あまりご発言がなかったと思います。

このことに関して、ご意見ありますでしょうか。再編されていく上で、多部制・単位制に統合していくと。ですから当然その名前は頭にあるの、多部制・単位制の議論をかなり深くしたということです。

あと丸山委員からご提案いただいている内容は、ほかに含まれているという、既に報告書(案)の中に含まれていると考えますが。

(丸山委員)

今言ったのは、定時制の再編として個別に議論というのはあまりならなかったということですが。

(中村委員長)

わかりました。

皆さん、ご意見をぜひお願いします。

ここの、報告書(案)の中の方向性のところに、拡大解釈をすればあるのかなと思いますが、それは私の文章だからであって、意見をいただきたいと思います。

(小山(壽)委員)

確かに丸山委員さんがおっしゃるように、個別にじゅうぶん検討するだけの時間がなかったのは事実ですね。事実は事実として、個別の学校、多部制・単位制との関係の中では、いくつかの学校について議論しましたし、定時制の適正配置についてもきちんと議論は何遍かあったかと思うのです。

やはり個別の学校について、時間をかけての議論はなかったように思います。事実として、そういう状況はあったということは、何らかの記載をしたほうが良いのではないかと思います。

(中村委員長)

はい。夜間定時制の魅力もある、それに対して多部制・単位制が夜間定時制を含んでいますが、完全に既存の夜間定時制に代わり得るものではないというご議論は確かにしていただきました。それから代わり得るものであるという、代わってもいいんだということもご発言いただいていますし、定時制、個々のことに関する課題に関する時間は取れなかったということは、方向性でしょうか、示していくべきだと思います。ですからそれに関して、個々の課題がもしあるようであれば、それに配置した再編整備をしていってほしいという...

(小山 (壽) 委員)
要望ぐらいですね。

(中村委員長)
要望ですね、はい。
委員会としてそこには時間をかけることがなかったので、そのようなことで要望に含めさせていただきます。個々の課題にじゅうぶん配慮せよということですね。
ほかにはないでしょうか。

(清水委員)
水を差すようで申しわけないですが、この 4.5 のところに加えてある内容は、ほんとにこういった内容で議論がされているのかなと、ちょっと不安に思うわけです。確かに、今までお話しされているように、個々の高校の定時制についての議論は、意見が出なかったのではなく、時間がなかった。そういった取り上げる機会がなかったと私は認識しております、ほんとにこういったことでいいのかなと、私は思っているのですが、あえて書くとすればこのように書かざるを得ないのかなと。ちょっと疑問ですが。

(中村委員長)
少人数のメリットを生かして、といいますか、それに魅力を感じて通う生徒もいるので、それに配慮すべきということであれば、多部制・単位制高校へすべての生徒が通うわけにはいかないことも考えられますので、ある程度現状の夜間定時制を残していくという議論はあったとは思いますが、ですからそれに現状もということに具体名を入れた文章になっています。

再編整備に当たっても維持していく夜間定時制のあるところを、この 2 番目の「・」に入れてあります。それから多部制・単位制の、魅力に関しては皆さん一致していると思いましたが、夜間定時制の役割も含めたということは、私は作文かもしれませんが皆さん議論の中にはこれも含んでいるということですのでしていただいていますので。

議論した結果の方向性と思っていただければよろしいと思います。このとおり発言いただいているというわけではないのです。

予定の時間を過ぎておりますが、急いでやるということにいきませんので、また若干お時間をいただきたいと思います。そのように進めてよろしいでしょうか。前回と同様、30 分ほど時間を追加したいと思います。

清水委員、具体的にはどのように記述したらよろしいですか。清水委員の思いをここに入れていただくとしたら。もちろん発言のあった内容ということを中心に考えていただいて、今日は議論の途中ということもありますので、追加もこの部分に関してはよろしいかと思いますが。

（清水委員）

私は今でも、多部制・単位制の良さというものが県教委さんの配慮によって、見学をさせていただいたときを境にして、私自身は認識が深まったと思っておりますが、各委員さんとも先ほどからお話が出ておりますように、この委員会においては多部制・単位制の良さというものは、ある程度認知されたと思っております。

ただそれが、ひとつには坂城高校、それから屋代南高校の関連の皆さんをはじめ、その地域の皆さん、要するにこの推進委員会以外の方々に、どれだけ認知されているのかなという疑問があるということは、いまだに思っていることです。

もう一点は、この場に及んでも申し上げたいのですが、定時制と、それから通信制が多部制・単位制に取って代わるものではないと私は思っておりますので、その辺の、今申し上げた2点のことが、極めてプライベートな意見で申しわけないですが、それだけがこの推進委員会で論じられた内容では、もちろんないのですが、そういったものも載せていただきたいなと思います。方向性ではなくて、この再編整備に向けての要望という中で、そのように思いますし、またこの特に定時制、通信制課程についてということに対しての、候補案に対する議論というものは、まだ不十分どころか何もないんじゃないかなというぐらい、ちょっと私にしてみれば不満足な状態でして、どのように書けばいいんでしょうということになってくると、私も具体的にどういうふうに書いていいのかわからないのですが、少なくとも先ほど申し上げた意見については記載すべきではないかなと思っております。

（中村委員長）

はい。多部制・単位制に代わり得るものではないというご意見は、そのように明示はしませんでした。それはなぜかというと、多部制・単位制を導入していくという方向性が、この推進委員会での大方のご意見だったと思います。この魅力があると、それを導入していく、どこかの高校に設置していくということでしたので、代わり得るものではないと完全に矛盾しますので、そういう役割も含めて多部制・単位制を設置するということですから、その代わり得るものではないという表現はしませんでした。

その代わり、この多部制・単位制の転換で統合されていない定時制、残る夜間定時制があるわけですが、そこの果たす役割が重要である。それからそこに通う生徒もこれからもいるわけですから、そこのところの充実を図っていく。そういう表現は入れてもいいのかもしれないと考えます。

（清水委員）

委員長さんのおっしゃることはよくわかるのです。ただ私が申し上げているのは先ほどの、その前のページのところにも関連してくることなので、どうかなとは思っていますが、多部制・単位制の高校にするということが、大方の意見として決まったんですが、やはり現存の高校をそれに転換するということは、総合学科に転換するよりはなるかに難しいのではという意見が、かなりあったと思うのです。

そういった根拠から、今ある定時制、通信制を多部制・単位制に変えていったらどうかということを主張し続けてきたと私は思っているのです。そういったような内容も、これ

はどちらでもいいのですが、ここに載せることがどのくらいの意味があるのかということもちょっとよくわかりませんが、あったことは事実だということで載せていただければと思います発言させていただきました。

それともう一点申し上げたいことは、多部制・単位制の良さというか、これからの時代にマッチした、これから必要とされる学校だと、この委員会では大方の方が思われていることじゃないかなと思います。これも確か推進委員会の中で、話が出たかと思いますが、地域の皆さんの理解がなければ、すべての改革については非常に難しいものがあるので、理解が必要だということは何度も話されている内容ですが、多部制・単位制の高校の良さというものについてのピーアールというものも、何かほしかったなと思います。

確かにこの委員会の中で、「我こそは」と名乗りを上げるというか、うちの高校にこういったものを取り入れていきたいんだというくらいの高校があっても良さそうではないかというような内容の話も出たやに覚えているわけです。

ですからそういったようなこともあって、何かここについては議論をし尽くした上で、どうしても結論が出なかったというよりは、まだ議論が不十分で尻切れトンぼになってしまったような感が、私はしているということを申し上げたいと思います。

（中村委員長）

今日も、想定外の日になっちゃったと思うんですね。12月末ということですので、1月、もう最後ですから、さらにもう1回というようなことになってきています。これは限られた時間の中で議論を尽くす、議論を尽くすというのは、時間も含まれている話ですから、途中であればそういう議論であったということなんでしょうが、それに向けて皆さん努力をされてきたわけですね。非常に苦しい日程だったと思うのです。視察もしたり、地域のご意見も聞いたり、地域の会合にも出られたりとか。その中でまとまってきたことであると私は思います。

ですから途中なので、これが結論ではないという言い方はしてはいけないんじゃないかと。これは地域の皆さんも協力しながら来たというふうに私は考えています。ですので、今の定時制に関しては、確かに議題として今日は定時制について、これこれこの高校のこの課題を挙げてくださいというような言い方をしませんでした。多部制・単位制の議論が一番多いですね、回数の上で。半分ぐらいは、そのくらい使っていると思うのですが、その中でやはり皆さんは吉田高校、商業高校、篠ノ井高校の定時制が統合されていくことを前提として、いろいろご意見を言っていていただいていると思いますから、決してその途中という形ではないと思います。

それとあえて言わせていただくと、独立校舎でやっていく必要性というのは、かなり強く主張されてきたわけですから、どこかの高校を転換していくことに関しては、もう皆さんの一致した方向としてとらえざるを得ないというところがあります。

それと地域の理解がなければやっていけない。その点に関しては5.1のところ、ちょっとまどろっこしい表現かなと思いますが、じゅうぶん説明したつもりであります。これはすべてにかかわることですので、その辺でご理解いただきたいと思います。

それから多部制・単位制の良さを説明するということも、その5.2のところにも含まれていると思います。一時期、また再度申し上げて失礼ですが、県の教育委員会は、一時期

「推進委員会に任せてありますから」というご発言を、地域の会合などでよくされていた。それではなくて、やはり教育委員会が進める改革に関しては、きちんと良さ、それから効果等を説明していただきたいという発言を、私はどこかの会で申し上げた、そのことをここに表現してあります。

清水委員の思いもわかりますが、私の文章では意が汲まれていないということであれば、やはりその辺のご提案をぜひお願いしたいと思いますので、次回までに文章なり、電話でもメールでも結構ですのでお願いします。

（丸山委員）

先ほど議論の中で委員長さんがおっしゃいましたが、多部制・単位制の中でいろんな議論をしてきたことは確かだと思います。しかし個別に、ここに挙がっている統合になってしまって廃止になる吉田、商業、篠ノ井、長野西の通信と、この部分について、ひとつひとつ個別に議論をして、ここがなくなることはどうでしょうか、地域にとってどうでしょうかという議論までは、きちんとはしていないという事実があつて…。

（中村委員長）

若干あるんですね。吉田高校のところは、ぜひ残してほしい。そういう山間地ですか、学ぶ機会というのも必要だと。

（丸山委員）

一応、じゅうぶんな時間が取れなかったというようなことについて書きながら、定時制の、残すといっている定時制の充実も含めて、地域の状況をよく考えた上で検討してほしいということしか、いまだまだ書けないのではないかと思います。それについてだって議論していない。個別に。私はちょっと言った覚えがあるんですけどね。

それはなぜかと言ったら、多部制・単位制がはっきり決まらないから、なかなか議論にならなかったんですよ。多部制・単位制がここだって決まっちゃって、つくるということになったとしたらどうするか。つくらなかったらどうするかという議論があったわけですよ。私が言っちゃたんですけど。

そういう点では、やっぱり多部制・単位制との関連で、個々の定時制について、ここだけでもなしになっているけど、これはほしいよなとかいう議論はなかったんですよ。一般的な議論です。

だからさっき委員長さんも小山先生もおっしゃったかな、その事実としてそういうじゅうぶんな議論、個別の議論はなかったのもその辺のことはじゅうぶん配慮してほしいということを付け加えておく、要望へね。そういうことぐらいで、配慮ください。

（中村委員長）

わかりました。丸山委員がご提案いただいた一番最初の「・」のところに、多部制・単位制を含めて議論してきたが、個別のじゅうぶんな検討はしていないという。ここの課題にじゅうぶん配慮していかなければいけないというような要望でつけ加えたいと思います。また文章を作ってから見ていただくということで。

ほかにございますでしょうか。
なければ、5番目のところにいきたいと思います。

(小山(壽)委員)

4の全体にかかわるのですが、すべてについて県立高校再編整備候補案というのは四角に囲って付いていますよね。これは必要ですかね。

(中村委員長)

なるほど。それについてというよりも、確かにもっと広くやってきましたね。

(小山(壽)委員)

ですから、これは削除してもいいんじゃないかなという気がしますが。4通の報告書には、一切ないんですよ。4通は原案どおりほぼやっていますけれどね。

(中村委員長)

わかりました。4の1、2、3、すべてに候補案が書いてあります。参考のためにという意味合いもあって書いてあるのですが、削除する方向でどうでしょうか。確かにこれについて集中してやったというよりもっと広く議論してきていると思います。

はい、わかりました。それは削除ですね。

5番目、よろしいでしょうか。5章目は全体にわたるところですね。それに関して、いくつかの項目で要望といいますか、付帯事項ということで意見を書き加えたいということで設けました。私は1、2、3と、これは私の意見というよりは、やはり推進委員会の中で所々で出てきた共通項という形でまとめました。

確かに私の意見も入っております。このほかにもしありましたら、あるいはそのような要望であって、こういうことじゃないかというご意見がありましたらお願いします。

(丸山委員)

全体としては、これでいいと思いますが、一番大きな問題としてちょっと、ぜひ加えてほしいなと思います。これは多分委員会の中でも議論になっていたと思いますが、それは実施時期の問題です。

実施計画の慎重な策定と早期実施と書いてあり、早期実施ということの意味は取れるのですが、ちょっと誤解されるのではないかなと思います。早期実施というのは先ほど委員長がおっしゃったように、中学生の生徒の関係もあって、それはやるんなら早期にやるべきだということが中心だと思っています。それからもうひとつは、小規模校になっていってしまうという、そういう部分で早期という言葉を書いているんでしょうか、趣旨は9ページの、「早期実施においては、地域を含めて関係者の理解と協力を得る。調整を図りながら再編整備に伴う予算確保も含めて、着手できるところからも段階的实施も考慮に入れていただきたい」というところで書かれているといえそうです。もっと明確に私は書いてほしいと思います。

ひとつは、私のプリントに、ダラダラと書きましたからこのとおりでなくていいのです

が、提案のところに、ひとつは準備の時間、実施計画を決定してから開校までの準備の時間を、ぜひしっかり取ってほしいと。地域や現場では、例えば総合学科でいえば、2、3年はほしいと。実際2、3年かけているわけです、ほかの学校だったりね。19年実施というのはやめてほしいと。

19年実施では、例えば総合学科でいうと、もう6月ごろにはある程度見えてないとだめで、ほんとに数カ月しか準備の期間がない。だから実施計画は少なくとも平成20年以降というところをしっかりと入れてほしい。

それはもうひとつの理由があって、準備の期間がほしいという、じゅうぶん検討する期間がほしいということがひとつです。それはなぜかという、上に書いてありましたが、今度の長野県の統合の特長は、吸収合併ではなくて対等に統合して新しい学校をつくるということで、そうなればどこかで天下りの改革をしてこれでやれという押し付けではなくて、真の改革ということになれば地域や現場の人たちが、膨大な内容のことを検討しなければいけないですね。それはほんとに、気が遠くなるような話なんです。

私はよく言っているのですが、ほんとに過労死が出るぐらいの問題になる。こんなの数カ月でやるなんてことは。だからそういう点では、そういう実施時期について、少なくとも20年度以降ということをしっかり入れてほしい。それはもうひとつ理由があるというのをさっき言いましたが、もうひとつというのは何かというと、受験生が、今受験する生徒が、統廃合になることを知らないまま受験をするという矛盾があるので、それを解消する、少なくともそのことを解消するためにも、20年実施というふうにしてほしい、20年度以降としてほしいと。

この段階的实施ということ、着手できるところからの段階的実施ということでもいいのですが、そこに実施については20年度以降ということについて、今の理由も含めてきちんと入れてほしいと思います。

（中村委員長）

はい。早期実施というのは、着手できるところから早期実施、段階的実施という意味で、文章は誤解はないように思いますが、その辺でも再考したいと思います、今の最後のところの丸山委員のご意見の「19年度実施ではなくて」というところは、皆さんご議論いただきたいと思いますが。

（坂口委員）

本当に19年度実施が可能なのかということからまず考えたいのですが、今丸山委員さんが言ったように、この春受験する生徒、前期選抜は2月1日にもう願書を出す。9日試験、それから後期の志願は2月23日。試験が3月9日と、今、言われたように自分の受験する学校が、今後どういう状況になるのかまだ不確定な中で受験をせざるを得ないと。これは中学校側としても、子どもに問われたときに確かに資料等については情報は出せるけど、あくまでもこれは決定ではないという中で、子どもに学校を選択させる。これは非常に中学校の現場とすれば、厳しい部分もあるのかなと思います。

19年度以降、20年がいいのか、そこは非常に難しい判断かと思いますが、今、委員長さんがまとめていただいた8ページにも「早急」という言葉があり、「速やかに」という言葉

があり、「早期」という言葉があり、「着手できるところから」と、その辺が非常にある点では理解できるわけですが、子どもたちにとっては非常にあいまいな部分があるのではないかなと思います。

実施計画の策定についても、早急と言いながら慎重なと、確かにそのとおりであります。が、子どもの立場に立てば、非常にこの辺が言葉の、あるときはマジックでわかるわけですが、具体的なものがわかってこない。これは非常に苦しいなと思います。

例えば先ほどの総合学科の5ページの要望のところにも、教育内容やカリキュラムをじゅうぶん検討する期間を設けてほしい。この「じゅうぶん」というのは、平成18年度1年かかるのか、あるいは19年度にかかるのか、そういった数字的なものは示されていない。

例えば、19年度にこだわらずにじゅうぶんというような文言が望ましいのか。非常にそういった点で、県の今、動いている計画では非常に厳しいのではないかな。今の中学3年生にとってみれば、非常に中学校側とすれば、責任を持って指導をできない部分がある。そういう思いがあります。

いずれにしろ、いたずらに延ばすことも、これはまずいと思いますし、改革といいますかひとつの流れの中で、早めに動いていただければ、やはり悔いを残す部分もあるのかな、そのような気もするわけですが、もう少し明確な年度が書けるものなのか、そのあたりご協議いただければありがたいかなと思います。中学校とすれば、今、地方の時代というような形ですべての学校が、子どもたちの選択肢として残るのは望ましいわけですが、それはもう不可能であり、やむを得ないと。

ですからどこの学校と、どこの学校がということにとっては、当該中学校にとってみれば、ほんとに大きな問題であります。長い目でみればやはり将来、子どもたちのための高校生活が、より順調に充実差を備えるには、平成19年度実施というものが、ほんとに可能なかどうか、そこを大事にしていいただければありがたいかなと、そんな思いであります。

(青木委員)

検討委員会から、また推進委員会へと検討をする中で、この早期実施ということは、決してH19年でなくてもH20年でもしスタートしたとしても、早期実施という言葉が当てはまるくらいの時間的な範疇にあると思います。

そしてこの一番怖いのは実施計画を3月末までに立ち上げて、もちろんH19年実施するために、着手するためには、H18年が1年間の、大変大事な1年間になるわけですが、前々から私も申し上げましたとおり、県議会、議会との関係もあるわけですが、もちろんそういうのは、精力的な財源確保も含めて、大事なものが18年度中にあるわけでありまして、はたしてそれが1年間のうちに間違いなく、スケジュールどおり実施計画に盛り込んだものがいくかということが、これは不確定な要素が多分にあるわけがあります。

そう考えたときに、今、坂口委員がおっしゃられたとおり、子どもたちに直接的な精神的にも、また自分の進路選択の意味でも、大きなそれぞれダメージを与えることだけは、これは絶対に避けなければいけない。

とすれば、私はこの実施計画を3月までに立ち上げるときに、時間的なスケジュールも含めてあいまいな、何としても18年度中に実施するんだということではなくて、確実な、

子どもたちが右往左往することを引き起こさないようにするためにも、少し時間の余裕を持って例えば20年度に実施着手をするというような、この実施計画で決定したとしても、これは教育委員会が今全県下に投げかけた、このプランの実施スタイルとする県教委としても、十二分に責任はまっとうしたとなるのではないかという気がいたします。

でありますから、ぜひとも地域との連携ということも先ほど来話題に上っておりまして、連係プレーを取るにしても、どうしても最低限1年ぐらいの時間をかけなければいけないわけでありますから、実施計画の中に、できたら年限を盛り込む、1年を遅らせて盛り込むぐらいの覚悟を決めてほしい。そのような要望を、ここへ盛り込んでほしいと思います。

(中村委員長)

ありがとうございました。

わたしのところに早期とか、速やかにとか、要望がたくさんある。これは実施時期については、現時点では委員会としては多分判断できない。これは実施計画を立てる、県の教育委員会が、無理にやることはできませんから、きちんと計画を立てるわけですので、そこで決まっていくことである。

その上では、やはり早期というのが子どもたちにとってメリットがあることだからということで、期限を入れずにこういう表現にさせていただいています。

(塚田委員)

やはり時期的なこと、やっぱり子どもたち、中学生にとってとっても大事なことだと思いますが、いつ実施をするのかという時期を早く示して、子どもたちのためにも早く示してやるということは、非常に大切なことだと思います。

そういう意味では、委員長の案の一番最後の、8ページの一番下に、高校再編の実施計画を早急に示しということが書いてあるので、時期もいつから実施するのか、時期も早く示してくださいよということを言われているのではないかと思いますので、そのところで、それがその表現で含んでいるんじゃないかと私は理解していますが。

(中村委員長)

はい、わかりました。青木委員、塚田委員がおっしゃっているように、特に青木委員がご指摘いただいたように、確実なスケジュールをしっかりと示せということですね。それを要望として挙げていくというふうに、これは5.3のあたりのどこか、文章を修正してもう少し明確に入れたいと思います。

(丸山委員)

それはそれでいいのですが、県教委はもう19年度実施とずっと繰り返しているわけです。

ただその19年度実施というのは、重大な問題なのです。その点は、もし年度については県教委が決めることということであるとしたら、その問題点をちゃんと指摘してほしいし、ほかの通学区でも例えば19年実施と言っているのもあると。それで20年以降にすべきだというのがあり、そしてさらにもっと、今の今度1年生になる子が卒業するまでは下級生がいないということ、いなくなるということを知らないで受験しているわけだから、その

子たちが卒業するところから実施だというような意見もありというようなことが書いてある委員会もあるわけですよ。

私は、19 年実施の問題点は、やっぱり書いてほしいと。これはやっぱりほんとに本気でこの改革をいいものにすれば、19 年にしちゃ無理ですよ。県教委がいくら言っただけで無理ですよ。

それとだって、前にも言いましたが、例えば総合学科でいいですよ、6 月までに推薦入試をやるんだったら 6 月に出すんですよ。募集の観点というのを。募集の観点を出すのに、学校の教育内容や学校名や、学校をどういう学校にするかということが決まっていなくて募集の観点が出せますか。6 月までですよ。この 3 月に、県教委が決めたとしても、3 カ月、6 月で、そんなのできますか。

できるよ、できるよと県教委が言っているとしたら、それが県教委がどこかで考えて、上で考えて、雲の上で考えて、これでやれっていうやり方です。そんなことだったら、この改革は大失敗しますよ。やっぱり地域や現場の皆さんのやる気を起こして、本気でつくっていくということにしたら、19 年実施なんていうことはものすごく乱暴なことですよ。

だからそこは、ちゃんと指摘をしてほしい。だから私は 20 年以降、そういうことも含めて、それからさっきの中学生の心情も含めて考えると、20 年以降にすべきであると。こういう問題点があるので、19 年実施じゃなくて、こういう問題点があるので 20 年以降にしてほしいと。20 年以降早期というのは、それはわかりますよ。20 年以降早期。もちろん、準備期からじゅうぶん取ってというのがありますけどね。

20 年以降早期に。一般的な早期というのがわかりますので、そういうことで書くべきだと。県教委だって 19 年度ってはっきり何回も言っているわけだから、それはやっぱり推進委員会の人「19 年問題あり」ということを書かないと。そういうことは、だってこの中だって議論で出ていたですね。だから、そこは書いてほしいと思います。

（中村委員長）

はい、ちょっとすみません。時間が限られている中ですが、このままですとやはりもう一度開催させてください。それで最終の報告書（案）について検討していただいてということで、次回はそれほど時間が取られないかもしれませんが、今日は委員長案を示したということで、皆さんからご意見をいただいています。

今、新しく論点として 19 年実施は無理ということで、年限を入れるかどうかも含めて議論が始まりました。これはすぐには、多分解決できないと思いますので、こちらの報告書（案）に対するご意見ということで、しばらくいただきたいと思うのです。これもご意見を、文章なり電話なりでいただくにしても、どこかで期限を切っていただかないと、それをまとめて次の委員会までに提示するというわけにはいきませんから、その辺をまた後で決めていただきたいのですが、ひとまず今日はこのぐらいお伺いをしておいてということ。

（小山（壽）委員）

年限については、非常に難しいということはたびたび私も発言させてもらいましたが、全体としての議論になっていなかったと思うのです。今、あらためてここで寝てる問題を

言い出すと、またそれでだいぶ時間を取られてしまう。年次について入れる必要はないと思いますが。

例えば4区の統合については、あのような書き方をしているわけですから、当然19年度実施は不可能であるということを前提に書いてあるべきです。総合学科についても同じでありますし、飯山地区についても必ずしもすぐにできるということではないということで、文章の中では書いていると思うわけです。

だから年限をいつと入れる必要はないんじゃないかと思います。それについての議論は、今まで積み重ねてきていないんですから、ある程度それを報告書の中に入れ込むということが、そもそもちょっと不可能ではないかなと。これは年限についてです。

それから8ページの頭のところで、高校改革はというところから、地域で衆知を集める必要があり、という地域にゆだねるとされているという部分は、ここは改革プランとのかわりの中で書かれているもので、全部不要ではないかなと思います。

それからその後、各通学区に設けられた「推進委員会」からという5.2については、1つにまとめられるんじゃないかと思います。その中で天下り式にという、ちょっと表現として、「天下り式に」という表現がいいのかどうなのか、ちょっと違和感を感じるなというようなことを思います。

5.4に、ぜひ人的、統合していくについては、人的、財政的な支援をしてほしいんだと、もっと強調して書いていただきたいなと思います。例えば教育委員会が知事部局と予算を取るときには、推進委員会から強い要望が出ているということを背景にお話をしていただかなければならないのではないかと。

そういう意味で、人的、財政的な支援を、ぜひここで記載していただきたいと思います。

(中村委員長)

はい。そうですね。5.1の前半の部分は、私が懇話会の座長だったということも含めて、一応第一推進委員会の特権かなと思いましたので入れましたが。

はい。今のようなことで少しご意見をいただいて、修正案として次回提案させていただきますので、ご意見を今日は時間がありませんので、次回までにいただいていくという方向で、また事務局で日程等について、調節していただこうと思います。

今日はこのぐらいでよろしいでしょうか。すみません、30分以上オーバーしてしまいました。

私の案といいますか、皆さんからいただいたご意見をまとめてきた、議論していただいた内容をできるだけ忠実にまとめたものですが、もちろんこれで決定ではありませんので、ご意見をどんどんいただきたいと思います。今日も、だいぶいただきました。

賛成意見もいただきましたが、言っていただくと、ほかの文章にも多分影響しますので、賛成意見も入れていただければと思います。

それでは、今日ほかに、特にありますでしょうか。なければ事務局のほうで、次回のことを少しお知らせいただき、皆さんのところへ多分日程調整のアンケートがいつているのではないかと思います。

（三澤教育支援主事）

次回の予定でございますが、およそ1週間ぐらいの2月の頭、4、5でいかがかと考えます。どうでしょうか。

いずれかの日程を、それぞれの委員さんのご予定を勘案しまして、ご連絡させていただければと思います。

（中村委員長）

それでは、報告書（案）に関する意見の取り方も、また連絡させていただきます。それでやっていこうと思いますが何かありますか。できれば、ご提案は文章でいただきたいと思います。気持ちをくんでくれと言われましても、また作文の能力次第になってしまいますので。

よろしいでしょうか。

はい、それではだいぶオーバーしまして失礼いたしました。これで第18回の推進委員会を閉じさせていただきます。

どうもありがとうございました。